

事業報告

平成 30 年度 法人本部 事業報告

本年度は、中期基本計画（平成 30～32 年度）の初年度として法人本部、障害者支援、高齢者支援の各部門とも計画の着実な実現に向けて取り組みました。

本年度の特徴的事業として、武蔵野市吉祥寺北町 5 丁目に障害者地域生活支援ステーションわくらす武蔵野の建設と開設にあたりました。平成 31 年 3 月の開所にむけて、準備室職員を中心に入居者への入所前準備や開所後プログラムの検討、各関係機関との連携、建設工事の進捗管理、備品類の購入、開所式の実施など、全職員で情報を共有しながら建設に当たり、無事に平成 31 年 3 月 1 日開所の運びとなりました。それに伴い、職員の大量採用、大幅な人事異動を行いました。

また、法人全体の提供サービスの質の向上に資するため、本年度も人材育成に力を注ぎ、職員研修のさらなる充実や、昇任試験や人事評価により意欲ある職員の登用も行いました。

法人は、今後も安全安心なサービスを提供することを心がけ、利用者様やご家族の満足度を向上させつつも、新規事業を軌道に乗せ、それにともない大幅な人事異動や施設再編を安定運営の軌道に乗せるよう、職員一丸となって「地域社会に役立つ」の理念のままに、更なるサービスの向上に励んでまいります。

1 法人全事業でサービスを提供した人、件数		(延数/年間)	
障害者関係	施設サービス	104,268 名	(昨年 100,729 名)
	支援・相談等	29,774 件	(昨年 28,075 件)
高齢者関係	施設サービス	37,165 名	(昨年 41,370 名)
	支援・相談等	9,852 件	(昨年 9,170 件)
合 計	施設サービス	141,433 名	(昨年 142,099 名)
	支援・相談等	39,626 件	(昨年 37,245 件)

2 理事等役員及び職員数及び参加ボランティア数（平成 31 年 3 月 31 日現在）

理 事	7 名	正規職員	152 名
評 議 員	9 名	嘱託職員	40 名
監 事	2 名	臨時職員	130 名
第三者委員	3 名	職員合計	322 名
ボランティア数	延 4,837 名		

3 苦情解決 苦情受付件数 14 件 （障害者施設 11 件 高齢者施設 3 件）

4 職員採用、異動等

- (1) 法人職員 採用 19 名（一般支援 15 名 看護師 1 名 保健師 1 名 栄養士 1 名 一般事務 1 名）
 退職 16 名（一般支援 11 名 看護師 1 名 施設長 4 名）（内、定年退職者 4 名）
- (2) 職員人事異動 60 名（昇任 14 名 配置転換等 46 名）

5 資格取得者数

社会福祉士	65 名	(内、今年度取得者 8 名)
介護福祉士	64 名	(内、今年度取得者 0 名)
介護支援専門員	40 名	(内、今年度取得者 0 名)
精神保健福祉士	10 名	(内、今年度取得者 1 名)
訪問介護員	28 名	(内、今年度取得者 0 名)
看護師・保健師	17 名	(内、今年度取得者 0 名)
保育士	19 名	(内、今年度取得者 1 名)

※本年度 当法人資格取得支援制度による合格者 3 名

6 理事会の開催

- (1) 第1回理事会 平成30年5月29日(火) (出席者 6名/7名中)
- ① 議案第1号 平成29年度事業報告
 - ② 議案第2号 平成29年度資金収支計算書・事業活動計算書・貸借対照表について
 - ③ 議案第3号 平成29年度決算附属明細書について
 - ④ 議案第4号 財産目録について
 - ⑤ 議案第5号 平成30年度社会福祉充実計画の承認について
 - ⑥ 議案第6号 (仮称) 吉祥寺北町施設の特殊浴槽整備工事の入札参加条件等について
- (2) 第2回理事会 平成30年7月9日(月) (出席者 7名/7名中)
- ① 議案第7号 (仮称) 吉祥寺北町施設の特殊浴槽整備工事の入札結果等について
 - ② 議案第8号 社会福祉法人武蔵野 組織等規程の一部を改正する規程
 - ③ 議案第9号 社会福祉法人武蔵野 基金・積立金規程の一部を改正する規程
- (3) 第3回理事会 平成30年10月23日(火) (出席者 6名/7名中)
- ① 議案第10号 社会福祉法人武蔵野 経理規程の全部を改正する規程
- (4) 第4回理事会 平成31年1月11日(金) (書面による同意 7名/7名中)
- ① 議案第11号 施設長人事の選任について
- (5) 第5回理事会 平成31年3月19日(火) (出席者 5名/7名中)
- ① 議案第12号 平成30年度収支補正予算(第1回)
 - ② 議案第13号 平成31年度事業計画
 - ③ 議案第14号 平成31年度収支予算
 - ④ 議案第15号 組織等規程の一部を改正する規程
 - ⑤ 議案第16号 印章規程の一部を改正する規程
 - ⑥ 議案第17号 報酬等規程の一部を改正する規程
 - ⑦ 議案第18号 職員給与規程の一部を改正する規程
 - ⑧ 議案第19号 職員就業規則の一部を改正する規則
 - ⑨ 議案第20号 ハラスメント防止規程の全部を改正する規程
 - ⑩ 議案第21号 施設長人事の同意について

7 評議員会の開催

- (1) 第1回評議員会 平成30年6月28日(木) (出席者 8名/9名中)
- ① 議案第1号 平成29年度資金収支計算書・事業活動計算書・貸借対照表について
 - ② 議案第2号 財産目録について
 - ③ 議案第3号 平成30年度社会福祉充実計画の承認について

8 事業並びに会計監査 平成30年5月22日(火) (出席者 赤塚監事、安田監事)

平成29年度事業及び会計監査を施設長並びに会計担当者からのヒアリング、書類審査

9 各種会議・委員会の開催

- (1) 経営企画会議 法人経営、施設運営に関する報告、検討、決定 毎月末日開催
- (2) 施設長会議 経営企画会議を受けて報告、検討、決定 毎月月初開催
- (3) 障害者施設長会議 施設運営に関する課題検討、決定 毎月2回開催
- (4) 障害者施設運営連絡会議 月次定例報告、課題の検討 隔月第1週稼働日3日目開催
- (5) 人事給与検討委員会 給与制度改正のための検討(平成30年度は経営企画会議にて実施)
- (6) 研修委員会 職員研修計画、企画、検討、実施運営 随時その都度開催
- (7) 中央衛生委員会 職員の労働環境や健康、衛生に関する検討、実施 年4回開催

※ 事業場衛生委員会は毎月開催

- (8) 情報セキュリティ委員会 個人情報保護、漏洩防止の検討、実施（施設長会議で毎月開催）
- (9) リスクマネジメント委員会 事故事例検討、再発防止対策等の協議（施設長会議で毎月開催）
- (10) 広報委員会 広報紙やHPの企画、構成、発行、内容検討等 定期的に開催
- (11) 第9回実践発表会 平成30年11月16日（金） 参加者204名
エントリー数14事業所、発表4事業所（金賞はウィズ）
- (12) 快適職場アクション2018 誰でも相談室、職場復帰支援プログラムの運用
ストレスチェックの実施（平成30年7月9日～20日）
新任施設長、係長面談
- (13) 職員確保プロジェクト わくらす開設に伴う職員大量採用のためのプロジェクトチームを
発足し、各大学、専門学校への就職斡旋、広報活動、各種就職セミ
ナーに参加し、募集活動を行った結果、中途採用者21名、新卒者
19名、合計40名を採用

10 職員研修

毎月の研修委員会で検討、企画し、今年度は主に各階層別の研修を実施

(1) 初級職員研修（対象：1～3年目職員）

① 採用時新人職員研修（対象：新人職員）

実施日 平成30年4月2日（月）～3日（水）他7回 参加者20名
内 容 法人・各施設の概要と課題、見学、挨拶、支援・介護の基礎、法人規程等の講義

② 半年後新人職員研修（対象：新人職員）

実施日 平成30年9月8日（土） 参加者7名
内 容 理事長講話「人間関係を磨こう」 講師：三好良子氏（人材育成コンサルタント）

③ 初級職員研修（対象：2年目職員）

実施日 平成30年6月30日（土） 参加者14名
内 容 理事長講話「拓け！自分！！」 講師：三好良子氏（人材育成コンサルタント）

④ 初級職員研修（対象：3年目職員）

実施日 第1回 平成30年11月22日（木） 参加者8名
実施日 第2回 平成31年1月12日（土） 発表者9名 ※2年目職員15名参加
内 容 提案力・伝達力・育成力強化のため、個々の業務上の課題、取組、成果を各自発表

(2) OJTリーダー研修（対象：新人職員育成担当者）

実施日 平成30年4月10日（火） 参加者4名
内 容 職場内新人職員研修のリーダーの役割等説明

(3) 全体説明会

実施日 平成30年4月13日（金） 参加者152名
内 容 理事長講話、法人の今年度の重点事業の取り組みについて

(4) 新任係長評価者研修

実施日 平成30年4月11日（水） 参加者3名
内 容 「新任係長へ評価制度の説明と評価者の留意点を学ぶ」

11 災害対策等

(1) 防災訓練等（障害者総合センター）

平成30年7月19日（木） 避難訓練
平成30年11月15日（木） 避難訓練

(2) 普通救命講習

平成30年9月8日（土） 参加者22名

平成 31 年 2 月 9 日（土） 雪警報のため中止 2019/4/4 に変更

※ 受講者累計 139 名（正規職員は全員取得を義務付け）

12 地域交流（障害者施設部門）

第 18 回むさしのあったかまつり（市内障害者団体等 24 団体参加）

日 時 平成 30 年 10 月 20 日（土）

会 場 武蔵野障害者総合センター、さくら並木公園

来場者 約 1,200 名

13 広報活動

(1) ホームページ運営（毎月更新し、最新情報を掲載）

(2) 広報紙「ぷれっそ」の発行（第 40 号から 43 号まで）

(3) 月報「武蔵野日記」を創刊（毎月発行）

(4) 法人専用電子メールアドレス・カレンダー機能による法人内の連絡・情報の共有化、活用の徹底

14 その他

(1) 月次会計監査の実施 会計事務所による会計監査の毎月実施 消費税計算及び会計相談等

(2) 見学者・来館者対応 平成 30 年度来館者 499 名

(3) 安全運転管理 安全運転講習会（総合センター）平成 31 年 1 月 23 日（水）

講師：武蔵野警察署交通課長 参加者：50 名

法人保有車両 40 台 自転車 43 台



第 9 回実践発表会より



就職セミナーより

平成30年度 指定障害福祉サービス事業
「ワークセンター大地」(生活介護) 事業報告

1 事業運営について

今年度は、4月1日付で特別支援学校を卒業した方が2名入所された。在籍者は56名となり、昨年度に引き続き定員を大幅に上回る登録者数となった。年度途中には武蔵野福祉作業所から1名加わり在籍が57名となった時期があった。この方は結果的に2か月(12月、1月)在籍したが、その後市外の障害者支援施設に入所した。

また、年度後半には6名の方が当法人の運営するわくらす武蔵野への入居が決まり、うち3名が3月より日中活動をわくらすに移し大地を退所された。そして、生活介護機能強化を目的とした再編により、14名の方が山びこに所属変更となり3月末で大地を退所された。これらの異動により来年度は登録者数が36名と大幅に減少することとなった。

施設長が交代し、新たに副施設長が配属されたことも一つのきっかけとなり、これまでの支援の方法や体制の見直しに着手した。成果が明確に表れるまでには至らなかったが、職員会議でのワークなどを経て新たな理念を定めることができた。職員の意識改革も含め、今年度行った取り組みは次年度も継続していく予定である。同じ生活介護事業を展開するデイセンターふれあい、デイセンター山びことは合同の会議や研修を設定し、創作活動も共同で行い、レイアウト変更や一部ルールの標準化を実施するなどの変革にともに取り組んだ。

一方、今年度はご利用者の親御さんが2名ご逝去された。ご本人の高齢化の課題とともに、ご家族の状況変化を強く意識させられた1年となった。今後はお一人お一人の地域生活と連動した日中活動支援の意識をさらに高めていきたい。今年度の稼働日は243日、延べ利用人数11,884人、1日平均48.1人(昨年度ほぼ同数)であった。

2 利用者の状況

(平成31年3月31日現在、単位：人)

(1) 利用者数

	前年度末	入所	退所	年度末
男性	41	1	3	39
女性	13	2	1	14
合計	54	3	4	53

(2) 年齢別利用者数

平均年齢 36.7歳

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	計
男性	0	15	9	10	4	1	39
女性	1	2	2	7	1	1	14
合計	1	17	11	17	5	2	53

(3) 障害程度別利用者数

愛の手帳		1度	2度	3度	4度	愛の手帳なし	計
身障手帳	1級					1	1
	2級						0
	3級						0
	4級以下			2			2
	身障手帳なし		29	15	6		50
合計			29	17	6	1	53

(4) 障害者総合支援法による障害支援区分の数

生活介護	計 53 人	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6
		2	17	27	6	1

(5) 利用日数

週 5 日	週 4 日	週 3 日	週 2 日	週 1 日
50	1	1	1	0

(6) 活動時間

午前 9 時から受け入れ、午後 4 時終了

(7) 通所方法

自力通所 20 人、施設送迎（送迎車） 24 人、家族付添い 10 人

なお、東京都補助金より交通費の支給を 9 人が受けている。

(8) 年間利用状況

延べ人数 年間合計 11,829 人（通所サービス日数 243 日）

1 日平均 48.68 人（121%）

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
1,003	1,024	1,046	1,039	1,062	873
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
1,065	1,043	949	914	933	878

（単位：人）

3 活動全般

(1) 活動体制

利用者の状況やニーズに応じて 4 つのグループ体制のもと支援を行った。

グループ	作業分担（主担当）	場所
第 1 活動室	受注活動を中心とした室内作業（軽作業、紙作業）、公園清掃、ポスティング	3 階
第 2 活動室	外作業を中心とした活動（ポスティング、アルミ缶回収、公園清掃）、リサイクルポット製作、アパート清掃他	2 階
第 3 活動室	軽作業、和紙づくり、自主製品等の作業（ビーズ、栞づくり）、チラシ配布、他	3 階

(2) 活動内容

プログラム	内 容	ねらい
作業プログラム	①軽作業（榮太樓、ボタン組み立て、封入封緘） ②公園清掃 ③アルミ缶回収とリサイクル ④ポスティング（ばど、テンミリオンハウス月見路、他） ⑤紙作業（紙ちぎり、ラミネートはがし、リサイクル） ⑥パン納品、販売、チラシ配り ⑦高齢者単身生活者への配食ボランティア委託 ⑧地域での作業活動（アパート清掃等）	自立への意欲を高める 人間関係づくり 社会ルールの習得 基本生活習慣の形成 社会への参加、成長意欲を高める
生活プログラム	スポーツ（サッカー、ウォーキング、プール、エクササイズ）、カラオケ、図書館、外出（昼食、喫茶、1 日）、宿泊旅行（全 4 回）	本人の社会参加をすすめる活動。 社会とのつながり、人とのつながりをつくる

(3) 工賃規定にもとづいて以下の工賃を支給した。

平成 30 年度工賃支給総額 3, 928, 500 円 ・ 一人あたりの月平均工賃 5, 845 円

(4) 行事等

宿泊旅行については 4 回に分けて実施した (希望者)。

宿泊旅行	① 9/6 (木) ~9/7 (金) ② 9/20 (木) ~9/21 (金) ③ 10/11 (木) ~10/12 (金) ④ 10/19 (木) ~10/20 (金)	①②③④ともに行先は埼玉県 秩父市方面
新年と成人を祝う会	1/7 (月)	イベントホールにて実施

4 その他の活動

(1) 臨床心理士による利用者アセスメント

新期入所の方たちを対象に、適切な支援内容の検討と円滑な日中支援プログラム提供をすべくその機会を設定。

(2) 保健・給食

健康管理・健康診断 (2 回)、歯科検診、耳鼻科検診

(3) 防災 (避難) 訓練

年 2 回の総合訓練の実施、年 5 回の災害伝言ダイヤル活用訓練を実施した。

(4) 家族関連

家族連絡会の開催 (年 3 回)、必要に応じての個別面談 (随時)

(5) 実習の受け入れ

- ・ 特別支援学校生徒の実習の受け入れ 4 名 (延) 12 人
- ・ 夏休み通所体験 6 人 (高等部 2 年生 5 名) (延) 9 人
- ・ 養成機関等学生の実習の受け入れ 受け入れは 10 名 (延) 85 人
(内訳) 社会福祉援助実習 / 介護体験学生 / 東社協

(6) ボランティア受け入れ

- ・ 延べ 168 人 (作業活動、外出など)

(7) 地域関連機関や団体との連携

- ・ 武蔵野市地域自立支援協議会の「権利擁護」「当事者」部会に参加

(8) 職員研修

- ① 施設内研修 「自閉症研修」 (全 7 回)
「ヒコラボ」 (全 8 回)

② 法人研修

- ・ 全体研修、施設長・係長研修、主任研修、3 年目研修、実践発表会
- ・ 普通救急救命講習会、安全運転講習会

③ 武蔵野市関係 (延 11 人)

- ・ 武蔵野市精神保健福祉研修 / ・ 高次脳機能障害者関係機関連絡会 / ・ 口腔ケア研修 (障害者福祉課主催)

④ 外部研修（延 14 人）

- ・東京都通所活動施設職員研修会研修／・東京都通所活動施設職員研修会、東社協知的発達障害部会合同研修会／・東社協知的発達部会総会時研修／・全国障害者生活支援研究会研究セミナー（サポート研）／・東社協関係／・日本てんかん協会／・強度行動障害支援者養成研修（基礎研修・実践研修）／サビ管研修／その他

⑤ その他

- ・「大地の理念作成ワーク」2回
- ・他事業所見学（昭島生活実習所、小平福祉園、シャロームみなみ風、日の出太陽の家、パサージュ稲城）

(9) 苦情受け付け状況

実績なし

平成 30 年度 指定障害福祉サービス事業
「デイセンター山びこ」(生活介護) 事業報告

1 事業運営について

入所は 3 名、4 月に特別支援学校卒の方 2 名、8 月に他法人の事業所を利用されていた方が 1 名加わった。退所は 16 名、5 月に長期欠席の方 1 名、6 月に市外転居の方 1 名が退所された。3 月にわくらす武蔵野に異動のため 14 名が退所された。この動きに伴う職員の異動が年度途中に複数回行われた。特に年度後半は、わくらす武蔵野に移るご利用者ができる限りスムーズに移行できるよう、また、継続利用の方々がこの動きでマイナスの影響を受けないよう配慮して支援した。

事業面では、生活介護 3 事業所の機能強化の取り組みを継続した。マネジメント層を中心に会議を行い、協同のあり方やルール of 標準化、活動場所とメンバーの検討、創作活動の連携等を実施した。「地域との協働」については昨年度以上のさまざまな場での取り組みを行い、多くの方々とコラボしたり、当事業所のことを知っていただく取り組みを行ったり、作品販売に力を入れたりした。(まんぱく 2018、タワーズマルシェ、エコマルシェ、クリーンセンターイベント、輪っかになろう展、ワクワクフェスタ、軒下フェスタ、hicobae での各種作品展、東京コレクション、高齢者デイへの出張創作等)。

ご利用者が年々経験を重ねて安定して活動できることが多くなっている反面、ご本人とご家族の高齢化の問題が顕著になってきている。ご本人に関しては健康面の配慮や活動プログラムの見直し、ご家族に関しては介護力の低下、複数介護の問題、親御さんご自身の健康問題など、安定した地域生活の継続を脅かす要素が表面化しているが、そのような課題への対応やサービスが十分ではないために危機的な状況を生み出しかねない。事業所・法人・武蔵野市とが連動した中期的な対策が求められている。

2 利用者の状況と活動全般

(平成 31 年 3 月 31 日現在、単位：人)

(1) 利用者数 (定員 40 人)

	前年度末	入所	退所	年度末
男性	22	3	7	18
女性	21	0	9	12
合計	43	3	16	30

(2) 年齢別利用者数 (平均年齢 33.5 歳)

	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	計
男性	2	7	3	6		18
女性		3	6	3		12
合計	2	10	9	9		30

(3) 障害程度別利用者数

		愛の手帳(療育手帳)				
		1 度	2 度	3 度	4 度	(合計)
身障手帳	1 級					
	2 級		2			2
	3 級		1			1
	4 級以下					
	なし		21	4	2	27
	合計		24	4	2	30

※精神障害者保健福祉手帳の所持者なし。

(4) 障害者自立支援法による障害程度区分の数 (平均 4.9)

区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6
		1	10	11	8

(5) 活動時間

午前 9 時 00 分から受入、午後 4 時 00 分終了 (送迎利用者は 15 時 30 分送迎車出発)

なお、これに限らず家族からの要請があれば時間前受入、時間延長など柔軟に対応した。

(6) 通所方法

施設送迎 33 人 (うちグループホーム 9 名)、家族送迎 8 名、単独通所 3 名 (平成 31 年 2 月 28 日現在)。

施設送迎以外の方も必要に応じて送迎を行った。

(7) 年間利用状況

延べ人数 年間合計 8,698 名 (通所サービス日数 243 日) 1 日平 35.8 人

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
737	753	770	752	804	677
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
832	804	705	679	718	467

(8) 活動について

- ・ 5 グループにより、メイン活動 (織物、缶回収、地域活動、創作活動、健康など) とフリーデイ (個々に合せた活動) を中心に活動を提供した。
- ・ ものづくり工房 hicobae を拠点として、常設展示のほか、企画展示 (空色展、織り展、だるま展、hicobae 展 3/7~11) を開催した他、地域のイベントにも積極的に出店した。武蔵野タワーマルシェ、まちのマルシェ (12/20)、また地域のコミュニティセンターや地域の特別支援学校の学園祭での作品販売・ワークショップ等を通じて地域住民と交流した。
- ・ 宿泊旅行は 3 グループに分かれて実施した。①7/5-6 ②9/6-7 ③9/20-21
- ・ 地域活動として、むさしのあったかまつりに出店・参加した。施設内活動として、ミニコンサート、季節行事として入所式、新年と成人を祝う会、春の日コンサートを実施した。

3 その他の活動

(1) 保健・給食

- ・ 健康管理として、健康診断 (2 回)、歯科検診 (1 回)、耳鼻科検診 (1 回) を実施した。
- ・ 給食について、利用者の状況に合わせた給食を提供した (刻み食、マッシュ食、ペースト食など)。
- ・ 職場内研修として、感染症予防研修を実施、また法人の救命講習を受講した。

(2) 防災 (避難) 訓練

- ・ 年 2 回実施した。
- ・ 大規模災害時を想定し、家族との緊急連絡をとりあう訓練として、災害伝言ダイヤルの体験利用を実施した。

(3) 家族関連

- ・ 家族会を年に 3 回開催した (4/27 9/26 1/24)。1 月はふれあい・大地との合同家族会とした。
- ・ 年度末の個別面談は利用者・職員の大幅な異動が行われたため実施を見送り、個別支援計画関係は書面にてのやり取りとした。ほか、必要に応じ個別面談や相談などを行った。

(4) 実習の受け入れ

- ・ 特別支援学校生徒の実習の受け入れについては、田無特別支援学級 1 名を受け入れた。
- ・ 養成機関等学生の実習の受け入れについては、社会福祉士養成校から 2 名（のべ 48 日間）、慈恵医大から 1 名（のべ 5 日間）を受け入れた。
- ・ 東社協知的発達部会主催の施設体験研修へ協力し、他法人の支援者 2 名を受け入れた。
- ・ 交流のある他市の社会福祉法人職員研修の受け入れも行った。

(5) ボランティア受け入れ

- ・ 今年度も積極的にボランティアの受け入れをし、活動協力・利用者支援に関わっていただいた。

(6) 地域関連機関や団体との連携

- ・ 活動を兼ねて、けやきコミュニティセンターのガーデニングにボランティア参加した。
- ・ あったかまつりに施設として利用者・職員が参加し、販売活動も行った。

(7) 広報

山びこ広報紙「やーっ報」を年 3 回発行した。

(8) 工賃の支給について

- ・ 工賃の支給についてはこれまでと同様、事業所の支給規定により、全ての利用者に毎月支給した。1 年間の支払い総額は 703, 800 円であった。

(9) 職員研修

① 山びこ内部研修・3 事業所合同研修

ヒコラボ・自閉症連続研修／発作対応研修／ケース検討会（5/9、12/7）、運転手添乗員研修／音楽療法／区分調査研修等

② 法人研修

全体説明会／2 年目職員研修／3 年目職員研修／実践発表会／主任研修／安全運転講習会等

③ 外部研修

都外施設見学／強度行動障害支援者養成研修／東社協合同学習会／創作系外部研修／サービス管理責任者研修／東京都障害者通所活動施設職員研修／全国障害者地域生活支援研究会等

4 苦情受付状況

今年度の苦情は 0 件であった。



平成30年度 指定障害福祉サービス事業
「デイセンターふれあい」(生活介護事業所) 事業報告

1 事業全般について

4月には新たに特別支援学校を卒業された方が1名加わった。年度途中(8月)にすばるを利用していた方が1名(週2日の利用)加わった。しかし、同じ月に闘病中の方がご逝去された。年度末の登録者数は29名であった。10月末には当法人が新たに設置して運営する障害者支援施設へ5名の方の入居が決まった。利用開始は2019年6月のため、新年度2か月は過渡期としてふれあいでも経過していただきながら、移行の準備を行うこととなる。これに伴って職員が年度途中で異動することがあった。

ふれあいの重要な支援課題に沿った3つのプロジェクトチームを中心とした取り組みを継続した。特に医療的ケアの充実を目指した取り組みでは、正規職員が全員喀痰吸引研修を受講し、医療的ケアの一部に関わることができるようになった。看護師との役割分担や連携も進められた。

創作・地域活動はこれまで以上に山びこ・大地との連携を強め、共同で会議・学習会・展示会などを実施した。職員も創作活動の取り組みに慣れて来ており、ご利用者の作品の質も向上している。昨年度に引き続き行われた武蔵野アールブリュット2018にふれあいとして出展し、吉祥寺美術館の入り口を作品で飾り高い評価を得た。

職員の意識向上・共通理解を進めるために、「ふれあいでも大切にしていること」について職員で意見交換や検討を行い、文章化することができた。今後は理念とともに日々意識するツールとしての活用が期待される。

2月にはご利用者が簡易ベッドから転落するという事故があった。通院同行等の対応を責任をもって行うとともに、再発防止に全力で取り組みたい。

2 利用者の状況と活動全般

(平成31年3月31日現在 単位:人)

(1) 利用者数

	前年度末	入所	退所	年度末
男性	14	2	0	16
女性	14	0	1	13
合計	28	1	1	29

(2) 年齢別利用者数 平均年齢 35.3才

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計
男性	1	8	1	5	1	0	0	16
女性	0	4	1	4	4	0	0	13
合計	1	12	2	9	5	0	0	29

(3) 障害程度別利用者数

愛の手帳		1度	2度	3度	4度	愛の手帳なし	計
身障手帳	1級	6	5	0	0	7	18
	2級	1	4	0	2	0	7
	3級	0	0	1	0	1	2
	4級以下	0	1	1	0	0	2
	身障手帳なし	0	0	0	0	0	0
計		7	10	2	2	8	29

*他に精神障害者保健福祉手帳の所持者あり

(4) 障害者自立支援法による障害程度区分の数

区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
0	0	2	3	8	16

(5) 利用日数

週5日	週4日	週3日	週2日	週1日
22	0	4	1	2

(6) 活動時間

午前9時から受け入れ、午後4時終了(送迎ある方は3時30分出発)

(7) 通所方法

施設送迎27人、グループホーム職員送迎1人、家族送迎1人

(8) 年間利用状況

延べ人数 5,028人 (通所サービス日数 243日)

1日平均 20.7人

4月	5月	6月	7月	8月	9月
425	437	458	426	464	384
10月	11月	12月	1月	2月	3月
465	419	390	381	392	387

(単位：人)

(9) 活動について

- ・通常活動は前年度を継続した。2つのグループは活動においては混在する形でおこなった。
- ・外出、外食活動は「1日外出」(2回)と「外食」(2回)とした。
- ・宿泊旅行については5回に分けて実施した。

① 6月14日～15日	鴨川方面
② 6月28日～29日	鴨川方面
③ 9月13日～14日	箱根方面
④ 9月27日～28日	箱根方面
⑤ 10月12日～13日	青梅方面

・作品展、販売等

① マジエルカ	年間通して吉祥寺マジエルカにて販売
② アールブリュット武蔵野	7月20日～23日アールブリュットに出展
③ 輪っかになろう展 (永谷ギャラリー)	7月27日～30日 生活介護合同、展示販売 ご家族の協力依頼
④ 南町文化祭	10月12日～14日 作品販売、展示
⑤ 中央コミュニティセンタ ー	11月1日～6日 文化祭に参加、作品展示
⑥ わくわくフェスタ	11月18日 生活介護合同 ワークショップ

・売り上げ配分(工賃)

作品展の売り上げから材料費、運営費を控除した上で、作品制作に関わった利用者に配分金(工賃)として9月と3月の2回に分けて配分した。 合計518,670円

・山びこ、大地と合同での展示販売の実施。

・その他

7月20日～23日 アールブリュットで吉祥寺美術館ロビーにふれあいの作品を多数展示した。

9月～10月地域のマルシェ、学祭、文化祭などで展示販売

10月20日(土)あったかまつりに作品販売で参加

季節行事として、夏フェス、クリスマス会、新年と成人を祝う会をおこなった。

地域交流として、地域の店舗、関係機関などに出かけ連携、交流を進めた。

3 その他の活動

(1) 保健・給食

① 機能訓練・理学療法士による機能訓練の実施(週2回)

- ② 健康管理・健康診断(2回)、歯科検診
- ③ 摂食・ペースト状特別食等、摂食しやすいような配慮
- (2) 防災(避難)訓練
 - 年2回実施
- (3) 家族関連
 - 家族連絡会の開催(4回) 山びこ、大地合同家族会(1回)
 - 活動の予定説明、施設や法人の状況報告、質疑など。
- (4) 実習の受け入れ
 - ① 特別支援学校生徒の実習の受け入れ
 - 都立小平特別支援学校から 1年生1人
 - ② 養成機関等学生の実習の受け入れ
 - 社会福祉士資格取得実習 2人 ・教員免許取得介護等体験 3人 ・医大生実習1人
 - その他体験・見学の受け入れを行った。
- (5) ボランティア受け入れ
 - ボランティア担当を置き日常の活動や行事で受け入れに努めた。 年間延べ 145人
 - 日常の活動手伝い、外出付き添い、行事の手伝い他。
- (6) 地域関連機関や団体との連携
 - ・武蔵野市地域自立支援協議会の「くらす」部会に参加した。
 - ・アールブリュット実行委員に参加
 - ・高次脳機能障害関係連絡会の運営委員に継続して加わった。
- (7) 職員研修、ほか
 - ① プロジェクトチーム
 - ケア検討、DCF(創作+地域活動)、意思決定支援の3グループに分かれて実施
 - ② ふれあい内部研修
 - ・意思決定支援、身体介護の実際 ・摂食嚥下のメカニズムとケアの実際 ・視覚障害の理解
 - ・感染症対策
 - ③ 生活介護合同、法人研修
 - ・法人、障害者支援部門が主催する全体研修、実践発表会、自閉症の理解、創作活動(コンセプト、接客、ラッピング、販売戦略など)
 - ④ 外部研修
 - ・医療的ケアの歩みと地域へのアプローチ・重度者の医療、療育・個別支援計画の再考・盲学校見学
 - ・強度行動障害・重症者の痰の吸引等医療的ケア支援者養成研修(特定の者)
- (8) 事故報告
 - 12件 書類の配布まちがえ、服薬忘れ、車の破損・自転車と接触、ご利用者の誤飲、リハビリ機器の破損
 - 活動中職員の指負傷、トイレ内ベットの転落、吸引器破損
- (9) 苦情受け付け状況
 - 0件

平成 30 年度 地域活動支援センター事業・指定特定相談支援事業・指定一般相談支援事業
「地域生活支援センターびーと」 事業報告

1 事業運営

昨年度策定された法人の中期計画に基づく3ヶ年の目標の3点に基づいた活動づくりに努めた。

1. 信頼関係を基盤とした障害者本人・家族それぞれの自立生活支援をチームで当たれる体制の構築
2. 共生社会実現のために、フォーマル・インフォーマル相互の社会資源の活用と開発の推進並びに地域の支援者や住民を巻き込んだコミュニティワークの実施
3. ソーシャルワークの担い手としてのスキルを身に付け、地域を基盤として活動できる人材の育成

相談支援事業は、計画相談だけでなく、生活を支える基本相談を支援の軸と位置付け、それぞれのケースに求められる具体的な支援を組み立ててきた。

また、相談に当たる専門員に必要なスキルの獲得では、毎月原則2回の支援会議を設定し、それぞれの実践を振り返りつつ、職員個々の支援力向上を目指している。

地域活動支援センター事業では、今年度も当事者ご本人と共に、①自らの気持ちを話せる機会、②体験しながら他者との交流をはかる取り組み、③活動を通じて様々な経験を積み重ねる場、④フォーマル・インフォーマル両方の支援者とのやり取りを通じて本人が生活を振り返り・考えながら前に進む話し合い、そうした4点を活動のポイントに事業を展開した。

なお、今年度は事業所指定の期限を迎えたため、指定特定相談支援事業・指定一般支援事業ともにそれぞれ武蔵野市・東京都に対して必要な手続きを行い、無事更新することができている。

2 相談支援の状況（平成30年4月～平成31年3月の実績）

(1) 指定特定相談支援事業・指定一般相談支援事業

昨年度より、総相談受付件数は600件を超える増となった。昨年度と比較すると約4%の増加率となっている。昨年度は、一昨年度対比約3%、その前は5%であったことから、ここ数年は、ほぼ同様の割合で増加傾向にあった。

このことから、一時期の様に、毎年数十パーセントを越えるような大きな増加は、ここ数年落ち着いてきているが、一定程度の比率で今後も増加していくことが予測される。

(2) 相談受付総数と内訳

総相談受付件数：16,023件（年度合計）※昨年度は15,399件

実相談件数人数：598人（年度合計）

新規基本相談件数：49人（年度合計）※内、継続して支援している人は15人

新規計画相談件数：24人（年度合計）

相談区分	身体	重心	知的	精神	発達	高次脳	重複	他	合 計 (相談区分別)
基本相談	391	16	2,695	342	182	9	559	197	4,391
計画相談	351	65	2,483	41	25	0	253	1	3,219
ピアカウンセリング	69	0	185	2	0	0	2	0	258
専門機関	836	166	5,444	226	147	7	754	416	7,996
時間外対応	1	0	51	5	0	0	0	102	159
合 計	1,648	247	10,858	616	354	16	1,568	716	16,023

※総件数が昨年度比の約4%増（昨年度は約3%の増、一昨年は約5%の増）

(3) 相談受付先

N0	区 分	件数	割合 (%)	N0	区 分	件数	割合 (%)
1	本人からの相談	5,168	32.2	6	親戚からの相談	66	0.4
2	父母からの相談	2,413	15.1	7	関係機関との連携	7,996	50.0
3	配偶者からの相談	27	0.16	8	知人・友人からの相談	10	0.06
4	子からの相談	1	0.01	9	一般市民の相談	106	0.6
5	兄弟からの相談	235	1.46	10	その他(匿名者他)	1	0.01

※昨年度集計値と比較して、本人からの相談が約 3.5%、関係機関との連携が約 5.0%増加。

3 地域活動支援センター事業

(1) 参加者数など（平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月の実績） 合計 7,106 人

単位：人

区分	わくきん	道場上映会	ダンス	PC	ぴあクラブ	体験塾	キッチン	手芸	女子会
人数	245	322	446	738	423	84	488	467	78
区分	サマーセミナー	あったか	集まろう会	公開セミナー	見学	サポーター	地域	市民向け	その他
人数	53	235	196	131	31	57	825	2,178	109

※集計の合計値が、昨年度と比較して約 0.6%の増。

(2) 各事業の概要

- ① わくきん … 「わくわく金曜広場」と利用者が命名。金曜日の夜に集まる当事者の集い
- ② 北町道場・上映会 … 仲間同士の交流をはかり、人とのつきあいを深める体験の場を提供
- ③ 北町ダンス倶楽部 … 障害者スポーツ指導員を講師に迎え、ダンスに楽しく取り組む機会
- ④ パソコン(PC)教室 … 希望や目的に応じたパソコンの学習教室。個別とグループ両方で実施
- ⑤ ぴあクラブ … 土曜日に開催。集団で体験や交流をはかり、社会との接点を持つ活動
- ⑥ 暮らし体験塾 … 生活の中からテーマを絞り、体験を通して身につける自立体験活動
- ⑦ みんなのキッチン … 調理体験と会食を通して参加者同士の交流を促進
- ⑧ 手芸教室 … ボランティア講師の指導で、思い思いの作品作りに挑戦する趣味活動
- ⑨ 女子会 … 女性登録者に限定し、女性ならではのテーマ設定により様々な内容に取り組む
- ⑩ サマーセミナー … 当事者向け学習会。今年度テーマは“看護師による夏の健康講座”
- ⑪ あったかまつり … 利用者有志の会が駄菓子屋を出店。企画から当日の運営までを担った
- ⑫ 集まろう会 … 一般企業等就労者対象の当事者活動。参加者の話合で「集まろう会」と命名
- ⑬ 公開セミナー … 障害者ご本人やご家族、一般市民などを対象とした公開講座の開催
- ⑭ 施設見学者への対応 … 相談から具体的な支援につなげる一環として通所施設等の見学を支援
- ⑮ サポータークラブ … 学生や主婦等が「びーとサポータークラブ」として活動に参加
- ⑯ 地域との連携 … 福祉の会やボランティア団体など地域社会との連携事業
- ⑰ 市民向け事業 … 障害者総合センター来館者対応やフリースペースの設置など
- ⑱ その他 … 地域活動支援事業全般に対する問い合わせや登録・契約など

(3) 月別の平均来館者数

地域活動支援センター事業関係の1日当たりの月別平均件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数①	21.9	25.1	24.6	25.1	22.9	22.2	25.6	26.5	27.9	23.4	24.8	30.3
人数②	14.8	16.3	14.4	15.6	14.3	13.3	15.2	14.4	17.5	14.9	15.4	20.8

※上段は「問合せ等受付件数+来館者数」の対応件数、下段は「来館者数」

4 自立支援協議会

自立支援協議会(親会議)委員として、法人から相談支援事業所の代表者区分で施設長が出席。
「相談支援部会」の担当委員として部会活動にも参加。合わせて、くらす部会にびーと職員を派遣。
その他の三部会(はたらく、当事者、権利擁護)については、例年通り法人の障害児者支援部門から職員を選任し、派遣している。

5 市民・関係機関支援者等向け及び、当事者に向けた公開セミナー(学習会企画)

(1) 市民・関係機関支援者等向け公開セミナー

テーマ：知的障害の高齢化と認知症状 ～地域生活支援を考える～

講師：古川慎治氏(独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園)

事業企画局 事業企画部 次長)

会場：武蔵野市役所西棟 811 会議室

受講者人数：131 人

(2) 当事者向けサマーセミナー(学習会)

テーマ：暑い夏！おいしく乗り切るヘルシーセミナー ～看護師による夏の健康講座～

講師：中野真美氏(社会福祉法人武蔵野 看護師)

会場：武蔵野障害者総合センター 地下食堂

受講者人数：22 人

6 苦情などについて

(1) 苦情受付件数：0 件…今年度苦情申し立ては無かった。

(2) アクシデント報告：1 件…外出活動の際に、駅員の誘導を受けた車いす参加者が別の路線に乗車。
三鷹駅まで総武・中央線と中央線に分かれて帰ってくるようになった。

7 職員の専門性や資質向上のための取り組みについて(主なものを分野ごとに抜粋して記載)

区分	開催研修テーマ	概要やテーマ等	主催
市	情報セキュリティ研修	情報の取り扱いに関する研修	武蔵野市総務部
法人	新規採用職員 OJT 研修	法人 OJT-One 研修(びーと業務)	社会福祉法人武蔵野
	法人相談支援従事者連絡会	野中式事例検討会研修	法人相談支援技能研究会
相談 支援 研修	相談支援員初任・現任者研修	相談支援専門員資格研修	東京都保健福祉局
	都自立支援協議会セミナー	地域移行・地域定着研修	東京都自立支援協議会
	心身障害者センター業務説明会	就労支援担当業務説明会	東京都保健福祉局
専門 分野 研修	アサーション研修	都精神保健福祉研修	多摩総合精神保健福祉センター
	強度行動障害支援者養成研修	強度行動障害基礎・実践研修	東京都保健福祉財団
	武蔵野市精神保健福祉講座	ネットゲーム依存の理解と支援	武蔵野市障害者福祉課

8 その他

- (1) 当事者主体の支援 … くらし体験塾、女子会、集まろう会、あったかまつり有志参加、等
- (2) 地域との連携・協力 … 地域福祉の会、こいこいの集い、あったかまつり実行委員会、等
- (3) 行政との協働・参画 … 武蔵野市地域自立支援協議会、武蔵野市高次脳機能障害者関係機関連絡会、武蔵野市高齢者及び障害者虐待防止連絡会議・障害者差別解消支援地域協議会、武蔵野市就労支援ネットワーク会議、等
- (4) その他連絡会など … 武蔵野市相談支援専門員連絡会、東京都相談支援従事者ネットワーク、都内知的障害者相談支援事業所連絡会「東京ネットワーク」、等

平成 30 年度 指定障害福祉サービス事業
「ワークセンターけやき」(就労継続A型・B型・就労移行) 事業報告

1 事業運営について

障害者雇用の環境や地域における福祉ニーズの変化に対応して平成 29 年度までに、新たな事業所の姿や運営方針の策定に向けて検討・討議を進め、ワークセンターけやきの理念を「仕事を通してつながりをひろげ、自分らしく成長していく」と定め、それに基づき下記のように事業運営を進めた。また、「ジョブアシストいんくる」と連携をして一般就労へのステップとしての役割も担ってきた。

(1) 就労継続支援A型(雇用)定員 10 名

必要とされる能力を有しながらも企業などで働く機会が得られない方に対して、印刷部門と食堂部門(市役所 8 階さくらごはん)で雇用契約を結び、合理的配慮ある労働環境を提供した。

(2) 就労移行支援 定員 10 名(平成 30 年 9 月 30 日で事業廃止)

平成 29 年度 9 月 30 日より事業を休止し新規受け入れを終了。平成 30 年 9 月で事業を廃止した。

(3) 就労継続支援B型 定員 30 名

封入等作業や天然酵母パン製造販売、喫茶パールブーケ運営を行い、福祉的な支援を受けながら働く機会を提供した。高い工賃で多様な働き方ができることから問い合わせや見学は多い。

2 利用者支援について

(1) 利用の状況

今年度は 7 名が新たに利用を開始し、1 名が就職で利用を終了し、6 名増となった。ジョブアシストいんくるの就労トレーニングや体験実習に入る方も含めると、けやき利用者に加えて 5 人から 10 人の新規利用者を常時受け入れている。

① 利用者数

平成 31 年 3 月 31 日現在(単位:人)

事業別(定員)	前年度末	入所	退所	事業変更	今年度末
就労移行(10)	0	新規受け入れを終了して 30 年 9 月をもって事業を廃止した。			
就労継続A型(10)	5	0	0	0	5
就労継続B型(20)	25	7	1	0	31
計	30	7	1	0	36

② 年齢別利用者数(平均年齢 37.0 歳)

平成 31 年 3 月 31 日現在(単位:人)

	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	65 歳以上	合計
男性	2	6	4	6	5	1	0	24
女子	0	4	4	3	1	0	0	12
合計	2	10	8	9	6	1	0	36

③ 障害・度数別利用者数

平成 31 年 3 月 31 日現在(単位:人)

		愛の手帳					
		1 度	2 度	3 度	4 度	なし	合計
身障手帳	1 級					3	3
	2 級					2	2
	3 級						
	4 級以下				1	1	2
	なし			8	13	8(精神)	29
	合計			8	14	14	36

(2) 活動時間

- ① 就労継続支援A型 9:00～17:00、週 5 日の勤務時間の内で、精神障害のある方の短時間雇用を含み本人の状況に合わせ雇用環境を提供した。
- ② 就労継続支援B型 8:30～16:00 の時間内でそれぞれ個別事情により柔軟に対応したことで利用時間を延長する方が増えた。
- (3) 利用契約と個別支援計画
利用契約を結び、個別面談を行い、個別支援計画策定とモニタリングを半期毎に行った。
- (4) 余暇活動支援
年末営業最終日に利用者交流会(希望者のみ)を実施した。ご利用者にも企画段階、当日の運営に参加できる機会を作った。
- (5) 地域交流、貢献事業
 - ① ベーカリーでは青空市や NTT 研究所等に出張販売に行き、積極的に交流を深めた。
 - ② 地域自立支援協議会に部会員を派遣した。
 - ③ 地域福祉の会や地域防災の会に職員を派遣した。
- (6) 保健衛生
 - ① 定期健康診断、内科検診等実施した。
 - ② 日常の作業時や行事の際の緊急時に備え、定期的に健康服薬調査を実施した。

3 就労支援事業について

(1) 売上について

① 印刷・サイン(就労継続A型)	49,852,588 円	
② 封入等作業(就労継続B型)	19,435,766 円	
③ 喫茶ベーカリー(就労継続B型)	25,351,524 円	
④ 食堂(就労継続A型)	20,180,508 円	合計 114,820,386 円

- ・全部門について収支改善計画を検討・実施した。喫茶ベーカリー部門が約 106%と売り上げを伸ばし、②の封入等作業のうち封入作業については 113%と売り上げを伸ばした。
- 印刷サイン、食堂事業など就労継続A型で売上が伸び悩んだ。各事業、昨年度比は 90%から 106%となり、全体平均では 96%であった。
- ・印刷部門は、売上に占める割合の低下にともないサインの製作機材について更新を徐々に止めているため、サイン部門の売上高が減少傾向にある。
- ・封入等作業については、官公庁の入札対応を再開したが市場価格の下落傾向が続いているが、ノベルティグッズなどの新規顧客を獲得したこともあり売り上げの改善につながる契機も得ている。
- ・ベーカリー部門は、職員体制も安定した一年となり外販にも力を入れて廃棄率をほぼ 0 に抑えることで売上規模を拡大、収益の改善も達成した。
- ・「さくらごはん」では、Facebook や周辺住宅へのチラシ投函などの宣伝広告、割引セールの実施、新たな価格帯のメニューの投入など販売促進を進めたが売上が通年で昨年度より減少した。来客の内 3 割を切っている市職員の利用を上げていくことにも注力していきたい。

(2) 印刷・サイン部門(西久保オフィス)

ポスター、名刺・封筒、チラシ・パンフレット、冊子・広報物等の印刷、名簿データ管理、Tシャツプリントなどの作業を行った。優先調達法制定に伴い、国の機関や中央官庁からの受注がいくつかあった。例年同様に多摩地区周辺の官公署需要への営業活動を積極的に行っている。

(3) 封入等作業部門(作業センター)

封入封緘作業、委託業務など、周辺区市の通知書の封入発送業務を中心に受注した。また近隣企業から、ノベルティグッズの通年業務を受注した。

SST の手法によるグループワークを複数回実施してビジネス上の身だしなみや挨拶、人間関係、ふるまいの在り方が浸透するよう取り組んだ。この取り組みは主体的に仕事に取り組む姿勢にもつながった。

職員も、ご利用者が各自の課題に向けて作業に参加できるような環境整備を継続して行った。ジョブアシストいんくるの作業研修として共同で作業にあたり、全体として作業品質の維持と受注量の受け入れ能力の確保を実現している。

(4) 喫茶ベーカリー部門

ご利用者に適した製パン方法を工夫することにより、ご利用者がより多くの製パン作業に係ることができるようになった。イベント販売、毎日夕方の外販に力を入れて販売増につなげた。

(5) 食堂部門

収支改善のため、メニューの見直しや近隣企業等への広報、割引セールなど新規顧客の来店のきっかけとなるような取り組みを継続的に実施したが、売り上げの減少が続いている。

(6) 賃金・工賃について

① 就労継続支援A型(雇用)

利用者と雇用契約を締結し、最低賃金以上を支給した。最低賃金の見直しにより、工賃を改定している。

② 就労継続支援B型

最低賃金時給の3分の1相当額(320円～330円)を平均支給額の目安として、作業評価に基づき工賃を支給した。工賃評価項目を見直し、就労指導により結びつく内容とした。

(7) 就職支援・定着支援における取り組み

本年度就職者数1名(就労継続支援B型)

4 サービス向上のための取り組み

(1) 職員研修

就労支援技術の研修を中心に、法人内外の職員研修を実施した。

(2) 人権擁護虐待防止に向けた取り組み

人権擁護セルフチェック(毎月)、人権擁護事業所チェックリスト(年2回)の実施

(3) 福祉サービス第三者評価受審

5 その他

(1) ご利用者向け広報「けやきだより」発行(3回)

(2) 防災訓練実施

(3) 苦情受付状況 0件

平成30年度 指定障害福祉サービス事業
「ジョブアシストいんくる」(就労移行)事業報告

1 事業運営について

ジョブアシストいんくるは、精神障害者、発達障害者、軽度知的障害者などを対象として、就職を志す人を支え、企業就労を実現し、継続するための支援を行ってきた。

(1) 利用の状況 就労移行支援 定員 20 名

① 平成 30 年度末登録者数

(単位：人)

事業別(定員)	平成 29 年度末	新規利用開始	年度内利用終了	平成 30 年度末
就労移行 (20)	24	19	22 (内 16 名就職)	21

② 年齢別利用者数(平均年齢 31.0 歳) 利用終了時もしくは年度末時点(単位：人)

	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	65 歳以上	合計
男性	0	14	9	9	0	0	0	32
女性	0	6	2	3	0	0	0	11
合計	0	20	11	12	0	0	0	43

③ 障害・度数別利用者数

利用終了時もしくは年度末時点(単位：人)

級/度	身体	知的	精神	なし	計
1	0	0	0	—	0
2	1	0	10	—	11
3	2	2	13	—	17
4	0	14	—	—	14
5	0	—	—	—	0
6	0	—	—	—	0
なし	—	—	—	1	1
計	3	16	23	1	43

平成 30 年度の 1 年間で 19 人が新たに利用を開始している。新規利用者はその多くが各地域の就労支援センターや相談支援事業所などの関係機関からの紹介によるものである。

平均利用者数は 18.7 人と昨年度(16.9 人)と比べて大きく向上している。

平成 30 年度利用者は累計で 43 名になり、平均年齢は 31.0 歳であった(利用終了時、年度末に利用継続の場合は年度末時点)。

精神障害の手帳を取得している方が 23 名で半数以上を占めた。また、身体、知的、精神の各手帳種別にまたがって、発達障害の診断もしくは傾向のある方が 17 名に達し、ともに増加傾向を示している。

(2) 活動時間 月曜日から金曜日、8:30～17:00 の間で、各人の状況やプログラムの選択に合わせて柔軟な時間設定と利用日でカリキュラムを作成した。

(3) 利用契約と個別支援計画 利用契約を結び、個別面談を月 2 回以上実施し、本人の意向に沿って個別支援計画を策定し、3 か月ごとにモニタリングを行った。

(4) 訓練手当について

就職に向けてのプログラムとしての意義から、作業実習に関わる時間については、東京都最低賃金の 3 分の 1 相当額を訓練手当として支給した。(年間平均で時間あたり 325 円を支給)

(5) 生活困窮者就労準備支援事業

武蔵野市から生活困窮者自立支援事業の一部である就労準備支援事業と被保護者就労準備支援事業を受託して支援を一体的に実施した。

(6) 平成 30 年 10 月から「障害者就労定着支援」の事業を開始した。

2 支援の取り組み

(1) 支援プログラムについて

就労トレーニング・就活プログラム・パーソナルアシストを個人別利用カリキュラムにより実施した。また、個別に選択や組み合わせのアレンジを行うにあたり、利用者の理解を助けるために、個別面談やプログラム見学などを行った。

① 就労トレーニング(作業)

ジョブローテーション：「封入等作業」を基本作業としつつも、適性に合わせて幅広い作業種に携わる機会を関係機関と連携して提供した。(主な作業内容：封入封緘作業、清掃業務、図書館受託作業、厨房調理補助作業)

企業体験実習：民間企業の協力で職場の見学・体験など施設外支援を多数おこなった(延べ410日)。また、東京しごと財団や東京労働局主催の企業体験実習も積極的に利用し、企業実習の機会を数多く提供した。

② 就活プログラム

ビジネススキルアップ(ビジネスマナー)、オフィスワーク(事務スキル)、メモのとり方、セルフラーニング(自習機会)など就職活動に必要な知識、技術獲得の機会や、グループワーク、グループラーニングなど利用者同士でのコミュニケーションスキルの向上を図る機会を幅広い利用者層に合わせて多層的に設定し実施した。

③ パーソナルアシスト(企業就労への支援)

履歴書作成や面接訓練などをきめ細かく実施し効果を上げた。

求職活動や就職面接、雇用前実習、トライアル雇用に同行し、就職活動をサポートした。

(2) 就職者の状況

平成30年度は16名が企業等に就職した。

手帳種別では精神の手帳を持つ方が半数以上を占める。また、全体のうち6名が発達障害の診断、もしくは傾向があると言われている方である。

就職先の業務内容は事務系(事務補助も含める)が8割以上を占めている。

就業地域は市内近郊、多摩地域など通勤至便な地域が6割以上となっている。

平成30年度 就職者の状況

(単位：人)

手帳種別	人数	業務内容	人数	就業場所	人数
精神	9	事務系	6	市内近隣	4
知的	5	事務補助系	8	都心部	6
身体	1	作業系	1	多摩地域	3
なし	1	店舗系	0	区部西部	3
計	16	厨房系	1		
(うち発達障害は6名)		清掃系	0	計	16
		計	16		

主な就職先は以下の通り。

株式会社アグレックス、三井物産パッケージング株式会社、株式会社神戸屋練馬工場、株式会社東洋冷蔵、西村あさひ法律事務所、オリックス生命株式会社、アフラックハートフルサービス株式会社、SOMPOチャレンジド株式会社、株式会社コーエイリサーチ&コンサルティング、株式会社吉増製作所、ソフトプレーン・フィールド株式会社、株式会社エースソリューション、パースルサンクス株式会社、株式会社サンドラッグ・ドリームワークス 他。

※開設以来(5年8カ月)では60人が就職し、のべ12人が残念ながら離職に至っている。

(3) 定着支援

就職者については、半年を目安に定期訪問や面談などの定着支援を行った後、状況を見て各地域の就労支援センターにつなげていった。

平成30年度10月から「障害者就労定着支援」の事業を開始した。積極的に利用契約の締結を図ったが年度末時点での契約者は10名にとどまることとなった。今後は20名程度の支援を行う予定である。それとは別に年4回、就職者の会を開催し、いんくる開設当初から現在に至るまでに就職した方の状況確認を行った。

(4) 訪問型職場適応援助者助成金事業

昨年度に引き継ぎ、本年度も障害者職業センターからの資格認定法人として職場適応援助者を配置しているが、障害者職業センター多摩支所との共同支援は実施しなかった。

(5) 生活困窮者就労準備支援事業と被保護者就労準備支援事業

自立相談を請け負う福祉公社や生活福祉課と毎月定期的にケースカンファレンスを行い、連携関係を構築した。従来から行っている「就活カフェ」や個別の相談による支援を中心にしながらも、継続的にコミュニケーションプログラムや PC 講座、PC 入力などのプログラムに参加する方も増えてきている。

また、武蔵野市内、さくら園で行う就労訓練事業を利用して就職へのステップとなる就労体験を行った。

3 サービス向上のための取り組み

(1) 職員研修

就労支援の支援技術向上のため、以下の研修に職員を派遣した。

- ・ 就業支援基礎研修
- ・ 就業支援実践研修
- ・ 職場適応援助者支援スキル向上研修
- ・ 生活困窮者支援事業実施者向け研修 他

(2) 苦情受付状況 0 件

(3) 人権擁護虐待防止への取り組み

法人全体の人権擁護虐待防止委員会の設置に加え、施設単位でも自主チェックリストの実施などの取り組みを行った。

(4) 保健衛生

定期健康診断、内科検診等を実施した。

(5) 東京都福祉サービス第 3 者評価を受審し、サービスの質の向上と運営の適正化を図った。

(6) 大規模災害時対応

大規模災害時を想定した初動マニュアルを整備し、地震を想定した避難訓練を 2 回実施した。

平成30年度「武蔵野市障害者就労支援センターあいる」事業報告

1 重点的な取り組みについて

- (1) 市内就労移行支援事業所等との連携体制の強化をはかり、障害のある方の就労と職場定着につなげる。

以下の内容で3回の武蔵野市障害者就労支援ネットワーク会議を開催した。

第1回 6月12日「よりきめ細やかな就労支援体制の構築に向けて」43名参加

第2回 12月5日「支援者と関係構築が難しい発達障害のある方の事例を通じて就労支援、生活支援、其々の支援機関に求められる役割と連携の在り方を検討する」36名参加。

第3回 3月8日「武蔵野市における障害者雇用の現状と展望」

- (2) 武蔵野市自立支援協議会はたらく部会に参画し、主に市内の障害者雇用未達成企業を中心とした雇用先・実習先開拓、企業支援を行う。

- ① 武蔵野市地域自立支援協議会はたらく部会出前講座の実施。

テーマ「障害のある方の働き方について」全3回(9月3日、4日、7日)

民生委員対象に開催 計90名参加。

- ② テンミリオンハウス(武蔵野市事業)における実習受入の開拓。(協議中)

- (3) 毎週土曜日開所という機能を最大限活用すべく、障害種別に応じた土曜日プログラムの充実をはかる。

- ① 知的障害のある在職者を対象に職場定着支援プログラムを実施。

全3回 各回12名参加。

- ② 精神障害のある在職者を対象とした自助会を実施。

奇数月第4土曜日 各回13名参加。

- ③ 発達障害のある方の自助会を実施。

偶数月第4土曜日 各回6名参加。

2 あいる登録者、支援の状況

- (1) 登録者全体の状況(全314名の内訳)

手帳別人数

手帳種別	人数
身体障害	18
知的障害	115
精神障害	173
なし	8
計	314

年代別人数

年代別	人数
18～20歳	14
21～29歳	78
30～39歳	75
40～49歳	95
50～59歳	39
60歳以上	13
計	314

状況別人数

状況	人数
在職	222
求職(在宅)	24
求職(施設)	50
その他	18
計	314

精神障害者手帳所持者が登録者の半数以上。また、在職者の登録が7割を占める。
40歳以上の登録者が約半数にのぼることから高齢化が進行しているといえる。

・新規登録者の状況

今年度新規登録者数は約50名。在職者の登録件数が増加している。
障害種別では、精神障害と発達障害のある方で7割以上を占めている。

(2) 新規就職者の状況

- ・新規就職者数は34名。
- ・手帳種別では精神障害者保健福祉手帳が全体の7割を占める。
- ・年齢別では40歳以上が約5割を占めている。
- ・昨年度より、就労先に中小企業が占める割合が高まりつつある。

(3) 離職者の状況

- ・離職件数は17件。
- ・手帳種別では精神障害者保健福祉手帳所持者が7割以上を占める。
- ・採用から1年未満での離職者が5割を超える状況である。

(4) 支援の状況

- ・来所者は例年並み。電話相談件数が大幅に増加している。
- ・移行支援事業所など関係機関への訪問件数が増加している。
- ・定着支援件数は例年並み、就職相談件数と就職準備支援件数が大幅に増加した。
- ・登録者が増加する一方で、「個々のニーズの複雑化、深刻化と相まって集中的に支援が必要な方が固定化される傾向が強まっている。

<支援内容別件数>

合計(4,884件)

職業相談(就労全般)	4,032
就職準備支援(適性、能力の把握、就労意欲や職業能力の向上等)	312
職場開拓件数(独自の職場開拓)	16
職場実習(通勤援助、職務分析等)	67
職場定着支援(通勤練習)	321
離職支援(諸手続き、調整等)	56
通院同行	15
家庭訪問	65

3 その他

(1) 地域啓発、関係機関とのネットワーク

- ① 武蔵野市、三鷹市、HW三鷹共催で「障がい者の就労を考えるつどい」を実施した。

テーマ：「見えにくいニーズを見える化するには。」

実施日時：平成30年10月31日(水)13:30～16:30 武蔵野スイングホールにて

参加者数:173名(障害当事者45名、企業関係者32名、福祉関係者27名、他)

- ② 西東京市、小金井市、武蔵野市の3市就労支援センターと田無特別支援学校進路担当教諭とで意見交換会を2回行った。

(2) 就職準備支援

- ① 武蔵野市庁舎内実習を2回実施した。計16課で実習を受け入れた。
- ② 企業実習が増加。22件実施し、11名が雇用につながった。
- ③ パソコン講習を年3期に分けて実施。平日に求職者コース、土曜日に在職者コースを実施した。

(3) 余暇支援

- ① 茶話会：毎月第1土曜日に実施。
- ② 交流会：以下の2回実施。
 - 第1回9月7日(金)19:00～20:30 武蔵野スイングホール 約40名参加
 - 第2回3月1日(金)19:00～20:30 武蔵野スイングホール 約50名参加

(4) 職員育成

- ① 事例検討会
帝京大学元永教授をスーパーバイザーに招き、事例検討会を全7回実施。かかわりの難しい発達障害、またアルコール依存、摂食障害などのこれまであまり経験のなかったケースについて学びを深めた。
- ② 各種専門研修
専門知識とノウハウの獲得を目的に、多摩精神保健福祉総合センターや産業労働局、障害者職業センター等の主催による研修に多数参加した。

平成 30 年度 指定障害福祉サービス事業
「武蔵野福祉作業所」(就労移行・就労継続 B 型・生活介護) 事業報告

1 事業運営について

年度内に新卒 1 名、中途 6 名の計 7 名の入所者を迎えたが、退所者が 9 名と多く定員割れの状態が続いている。年齢の分布をみると 60 歳以上の利用者が、9 名となり、平均年齢も 39.7 歳と高い。新卒の利用者減に加え、中途入所者の高年齢化が影響している。こういった現状に即して、理念と基本方針について検討を重ね、幅広い「働くニーズ」に応えていくことを主眼に置いたものに改定した。就労収入は、前年度より微増となった。受注・食品の各プロジェクトの取り組みが成果につながった。

2 利用者の状況と活動全般

(1) 利用者数

平成 31 年 3 月 31 日現在 (単位: 人)

事業別 (定員)	前年度末	入所	事業間異動 での増減	退所	今年度末
就労移行 (6)	7	0	△6	0	1
就労継続 B 型 (64)	62	7	4	9	64
生活介護 (10)	7	0	2	0	9
計	76	7	0	9	74

(2) 年齢別利用者数 (平均年齢 39.7 歳)

平成 31 年 3 月 31 日現在 (単位: 人)

	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	65 歳 以上	合計
男性	0	12	16	7	6	1	4	46
女子	1	8	5	6	4	3	1	28
合計	1	20	21	13	10	4	5	74

(3) 障害・度数別利用者数

平成 31 年 3 月 31 日現在 (単位: 人)

		愛の手帳					
		1 度	2 度	3 度	4 度	なし	合計
身障手帳	1 級	0	2	0	1	1	4
	2 級	0	1	1	0	2	4
	3 級	0	1	1	0	0	3
	4 級以下	0	0	2	0	1	3
	なし	0	19	35	6	1 (精神)	60
	合計	0	23	39	7	5	74

(4) 障害者自立支援法による障害支援区分の数

未確定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
24	0	10	23	13	4	0	74

(5) 活動時間

基本的な活動時間は 9:00 開始とし、終了時間はグループによって 16:00 を基準に前後 15 分の中で設定している。時間構成は、4 コマの作業時間の区切りで 15 分休憩と昼休みを入れている。利用者個々の要望に合わせ、利用時間、利用日数を決めるよう

にしている。

(6) グループワークプログラム

少人数グループプログラム 3 種を実施。

WG ミュージック&コミュニケーション (第 2・第 3 週 水曜日)	会話と歌を組み合わせ、言葉でのコミュニケーションの方法を経験的に学ぶ。少人数の利点を生かし、参加者各自の課題に向き合える内容とした。
WG 夢の扉 (健康体操) (毎週木曜日)	音楽に合わせてゆっくり体を動かすプログラムを実施。横になったのストレッチ等を取り入れた。新年会で発表の場を設け、意欲的に取り組める内容とした。

(7) ワークショッププログラム (毎週木曜日)

専門講師による芸術活動を行った。あったかまつりへの作品展示参加を行った。

(8) 作業活動と工賃

作業活動は、受注事業と食品事業各部門のプロジェクトチームが機能し、売り上げが回復しつつある。

売上実績表 (単位: 千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H29合計	3,328	3,237	4,175	3,392	3,110	3,062	3,642	3,624	3,445	2,846	3,045	3,445	40,349
H30合計	3,197	3,627	3,708	3,733	3,181	3,137	3,973	4,275	3,433	2,961	3,087	3,359	41,671

工賃支給実績 (多機能合計の月平均) は、平成 29 年度 12,418 円に対し 13,383 円となった。工賃支給額の算定についての見直しが課題となっている。

(9) クラブ活動

少人数で年 3 回実施。種類は、「あおぞら」「カラオケ」「ビデオ鑑賞」「スイーツ」とし、各回参加者の打合せによって内容を決定した。尚、クラブ活動に参加しない選択肢も設け、希望しない利用者が作業に従事できるように配慮した。

(10) 年間行事

施設で企画する行事は以下の通りに行った。

①日帰りバスハイク 宮ヶ瀬ダム

5月11日 (金)、5月25日 (金)、6月8日 (金)

利用者65名 職員24名 ボランティア4名

計93名

②宿泊旅行 山梨方面

9月6日 (木) ~ 7日、9月20日 (木) ~ 21日 (金)、10月4日 (木) ~ 5日 (金)

利用者 63名 職員22名 ボランティア2名

計87名

③新年会

1月4日 (金) 新成人・勤続者のお祝い、ボランティアのステージ等

利用者 67名、招待ボランティア 5名、出演ボランティア 3名、職員 15名 計 90名

(11) 自治会

利用者の中から、会長 1 名、副会長 1 名、書記 2 名、会計 2 名を選挙により選出し、その 6 名からなる役員会を中心に本人活動の支援を行った。主に年 4 回の自治会全体会の企画運営の支援を行った。

3 その他の活動

(1) 保護者連絡会

5 月、9 月、3 月の年 3 回を原則として施設より利用者家族に向けた情報伝達の間を設け、福祉政策、行政の動向、地域の動向、施設の動向等を情報発信する機会とした。

(2) 広報紙

「むさしのだより」を毎月最終月曜日を基準に、利用者向けに発行した。

(3) 保健衛生

看護師による日常看護としての利用者の健康管理と嘱託医（内科・精神科）による健康相談を毎月 5 回、健康診断、歯科検診を実施した。また、感染症対策、緊急時対応マニュアルの改訂、緊急医療対応シミュレーション研修を行った。

(4) 給食

法人の栄養士が献立を作成し、就労支援事業として職員と利用者で調理し、給食を提供している。主食と主菜の選択食をそれぞれ毎月 1 回行った。

(5) 総合防災訓練

消防（避難）訓練など年間 3 回実施した。

(6) 地域交流

①イベントへの出店（やさい食堂 七福）

9 月 15 日（土）、11 月 17 日（土）、3 月 24 日（日）… 三鷹タワーズマルシェ

11 月 18 日（日）… ムチューわくわくフェスタ

10 月 21 日（土）… 「むさしのあったかまつり」食品販売・作品展示

②市立大野田小学校への学習協力

12 月 3 日（月） 出前授業「みんな一緒に」4 年生の「総合的な学習の時間」

12 月 11～14 日 体験授業（見学・作業体験）

③成蹊大学理工学部システムデザイン科との福学協働の取り組み

「プロジェクト実習」への協力（見学受入・出前授業・研究へのフィードバック等）

④ 野菜食堂七福と武蔵野市健康づくり事業団との連携

7 月 6 日（土）… 特定保健指導（弁当の提供・説明等）

8 月 17 日（金）22 日・2 月 20 日（水）… 血圧科学セミナー（食事の提供・説明等）

(7) 職場内研修・法人研修

職場内研修…権利擁護研修を実施。就労系の事業所合同での研修も実施した。

(8) 施設外研修

外部の研修への職員を派遣し、参加者は職員に研修内容を講義し共有を図った。

4 苦情受付状況

苦情は、一般・利用者ともに年間を通して 0 件。

5 第三者評価

今年度、第三者評価を受審している。評価機関：一般社団法人 Riccolabo.

6 年間実績一覧

多機能型・定員	80 名	ボランティア活動延人数	22 名
		見学者数（一般見学）	251 名
利用者延数（年間）	15,544 名	見学者数（利用に向けての見学）	25 名
サービス提供日数（年間）	241 日	実習生（一般・学生等）延人数	46 名
1 日平均	64 名	事前の体験利用者数	18 名
		苦情件数	0 件
		事故件数	5 件

平成 30 年度 指定障害福祉サービス事業
「ワークステージりぷる」(就労継続 B 型) 事業報告

1 事業運営について

新年度を迎え新卒者 1 名が入所した。20 名の定員を開所以降初めて超え 21 名となった。開設して 5 年目となり、昨年見直した基本方針を推進させ、作業等はたらく力の支援とともに自立にむけた社会生活力支援についても導入し試みた。

工賃向上計画のもと新規の顧客や受託案件を求めたが、目新しい結果を残すことができなかった。既存顧客からの受注量についても頭打ちの傾向がみられ、補填的に法人内外の他事業所の下請け作業を受託することとなった。支給工賃総額は前年度より減少している。菓子の箱づくりや食品の箱詰めなどの受託も積極的にを行い、利用者の多様な作業経験につなげた。

ジョブアシストいんくると協働し、実習生扱いで企業就労を目指す利用者を 2 名受け入れ「一日 9 時から 17 時までの軽作業体験」を提供し簡単な評価やフィードバックを行った。

2 利用者の状況と活動全般

(1) 利用者数

平成 31 年 3 月 31 日現在 (単位: 人)

事業別 (定員)	前年度末	入所	退所	今年度末
就労継続 B 型 (20)	20	1	0	21

(2) 年齢別利用者数 (平均年齢 35.0 歳)

平成 31 年 3 月 31 日現在 (単位: 人)

	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	合計
男性	1	4	3	4	1	13
女子	0	2	3	2	1	8
合計	1	6	6	6	2	21

(3) 障害・度数別利用者数

平成 31 年 3 月 31 日現在 (単位: 人)

		愛の手帳					合計
		1 度	2 度	3 度	4 度	なし	
身障手帳	1 級	—	—	—	—	—	—
	2 級	—	—	—	—	—	—
	3 級	—	—	—	1	—	1
	4 級以下	—	—	—	—	—	—
	なし	—	8	6	6	—	20
	合計	—	8	6	7	—	21

(4) 障害者自立支援法による障害程度区分の数

未確定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
6	1	4	7	3			21

(5) 活動時間

基本的なサービス提供時間は 9:00 から 17:00。一日 6.5 時間の就労時間を保証するとともに、作業量に合わせて稀に 17:30 までの残業も行った。ご利用者の意向を確認し、残業の可否や終了時刻 (16:00~17:00 の間のサービス利用時間) の確認を併

せて行い、利用時間を選択できるよう配慮した。

(6) 作業支援と工賃

作業支援は、ダイレクトメールの封入・封緘を中心に多様な機会を提供できるよう心がけた。グループ表と見取り図を作成し、作業内容と作業の場所が理解できるように構造化を図り、利用者が自発的に動ける環境を整えた。利用者への働きかけについて「肯定的に伝える」ことを職員の基本姿勢に据え、利用者の自己肯定感と動機付けに寄与できる環境づくりを行った。年度中に一度、工賃評価の見直しを行った。

売上実績表（単位：千円）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
28年度	590	664	775	774	738	810	747	790	901	739	892	1,258	9,678
29年度	818	778	910	819	814	873	672	700	712	623	850	913	9,480
30年度	678	760	945	585	844	474	789	650	704	742	504	566	8240

工賃支給実績（月平均）は 26,675 円（小数点以下切捨）となり、平成 29 年度と比べると 5,806 円低下、時給換算では平均 236 円となり、目標としていた東京都最低賃金の 1/3 以上には到達できなかった。主な要因としては大口顧客との取引停止と受注するダイレクトメール関連の単価が総じて低いという点。売上額が下がり、利用者増で一人当たりの工賃支給額が低下した。

(7) 生活支援

① 当番制で実施

- ・朝のミーティング後、当番が前に出て「体操」と「挨拶・報告・連絡・相談」の掛け声を皆で発声練習。
- ・掃除…施設内、近隣の清掃を月毎のグループ交代制で行った。
- ・給食…当番が給食の食数計算、食具の準備と配膳など。
- ・取引先訪問…納品、資材の引き取りを、職員と同行。利用者 2 名が交替制。

② 自由選択の日

昨年度に引き続き、毎週金曜日の昼食を給食以外のサービスも利用できる自由選択の日とした。

(8) 年間行事

行事については事前に利用者の意見を取りまとめ、計画段階から参画できるような展開を大切にした。

今年度は一日外出、旅行、忘年会、新年会を実施した。

- | | | |
|--------|---------------|----------|
| ① 一日外出 | 葛西臨海公園と地下鉄博物館 | 6月29日（金） |
| | 吉祥寺散策 | 7月27日（金） |
| | 浅草にて菓子作り体験 | 8月3日（金） |

- ② 宿泊旅行 秩父・長瀬方面 9月13日(木)～14日(金)
- ③ 忘年会 12月28日(金) りぶるにて。
- ④ 新年会 1月23日(水) レストラン「七福」にて。

3 その他の活動

(9) 広報紙

「りぶる通信」(A4、1ページ※写真掲載号は両面刷り) 毎月初旬に、利用者へ向け
て発行した。

(10) 保健衛生

利用者の健康診断(年2回)、歯科検診(武蔵野市在住者のみ)を行った。武蔵野福
祉作業所の看護師によるバックアップ体制をしいた。

(11) 給食

武蔵野福祉作業所で調理した給食をランチケースに盛り付け提供した。

(12) 総合防災訓練

北町はっと館との合同訓練に参加。消防(避難)訓練など年4回実施した。

4 職員研修

- ・職員が外部の研修に参加した(3名5回)。
- ・法人内就労支援部門の研修に参加した(2回)。
- ・市内他事業所を見学(1名)し、見学発表会を行った。

5 苦情受付・事故状況

- ・利用者が納品時に取引先で転倒し、右手首を骨折
- ・利用者間トラブルへの介入の方法について
- ・納品締め切り時間の誤認による納品遅れ

6 サービス提供記録

前日のサービス提供内容について、翌朝のミーティング時に利用者が確認、押印す
る方式を継続した。

7 年間実績一覧

就労継続支援B型・定員	20名	見学者数(一般見学)	25名
		見学者数(利用に向けての見学)	3名
利用者延数(年間)	5,105名	実習生(一般・学生等)延人数	3名
サービス提供日数(年間)	244日	事前の体験利用者数	3名
1日平均	20.9名	苦情件数	2件
		事故件数	1件

平成 30 年度 みどりのこども館 児童発達支援事業
「こども発達支援室ウィズ」 事業報告

1 施設の運営について

当施設は武蔵野市より委託を受け(指定管理)、児童福祉法の児童発達支援事業として運営している。1 日の定員は10名、対象児は3 歳児～5 歳児である。この事業の他に、今年度から新たに学齢期の肢体不自由児を対象とした放課後事業「つばさ」を実施した。「生きていく力の土台をはぐくむ」という理念のもとに、造形・感覚・運動・ふれあい・音楽などのプログラムを通して、それぞれの発達の状態に応じて、個も集団もどちらも大切に活動を行った。

今年度も子どもの登録が年間で16名、平均利用数が11.7名/日となり稼働率が 116.5%となった。定員超過となったため、年少児については週 3 日の利用とさせていただいた。3 年連続で利用調整がかかる状況である。平成 31 年度は 32 年度からの児童発達支援センター化を見据えて定員を 20 名とすることとなった。今後も継続して支援の質を高め、保護者や関係者と協力しながらより良い療育を目指して取り組んで行きたい。

2 通園を利用した子どもの概況 年間を通した状況(単位:人)

年齢別利用児数(平成 31 年 3 月 31 日)

	3 歳児(年少)	4 歳児(年中)	5 歳児(年長)	合 計
男児	3	1	1	5
女児	4	4	3	11
合計	7	5	4	16

障害程度別利用児数

		愛 の 手 帳					
		1 度	2 度	3 度	4 度	等級不明 (申請中も含む)	なし
身 障 手 帳	1 級						
	2 級		2				
	3 級		1				
	4 級以下		1				
	等級不明 (申請中も含む)						
	なし			6	3		3
てんかん2名、染色体異常2名							

3 療育内容(通園関係)

(1) 活動時間

通常の活動は年少から年長を通して、9:30～14:00 までで実施した。また、今年度より4月と8月を除く毎月1回、16時までの延長保育を実施した(年中・年長児対象)。参加率はほぼ 100%で保護者から好評である。

(2) 活動内容

個別支援目標に沿って、着脱や排泄・食事などの基本的生活習慣の獲得や体操・朝の会・設定活動などの小集団での活動を通した発達支援を行った。設定活動では散歩・創作・感触遊び・運動・クッキング・誕生会・季節行事・幼稚園、保育園交流などを行った。

(3) 音楽療法

引き続き講師を導入して実施した。通園児のニーズに合わせて、目的別小集団に分けて行なった。その結果一人一人のきめ細かい対応が行えた。

(4) 動作法プログラム

引き続き講師を導入して実施した。通園児のニーズに合わせて、目的別小集団に分けて行った。保護者の方が一緒に参加し、身体の使い方の相談も行なっている。

(5) 食事

給食は総合センターで調理し、館に搬送し配膳(盛り付け)をしている。内容は出来るだけ本人の食べやすいものにし、楽しい食事場面を作る中で、食事の仕方や偏食の改善を行ってきた。また、摂食や嚥下の難しい児には、介助を行ったり特別食で対応したりした。

(6) 送迎

家庭の事情に配慮しながら、施設独自での送迎を行った。この1年間に在籍した 16 名が送迎車による送迎を利用した。送迎車 2 台で市内全域の送迎を実施した。

(7) 保護者との関り

- ・保護者会を年に4回、個人面談を各3回開催し、通園児全員の家庭訪問も実施した。なお、親同士の関係作りや経験交流のために、親の会の集いを設定した(8回行われた)。
- ・家族参観日を年に2回土曜日に実施した。その他にオープンデーとして自由に参加できる活動を年3回設定した。また、設定した日以外でも自由に保護者が見学できるようにした。
- ・家族向け広報紙「ういずきつず」を年2回と卒業文集「えがお」を発行した。

4 行事等(通園関係)

行事名	月日	行 事 内 容
入園式	4/6	入園式・保護者会
保育園・幼稚園との交流		千川保育園、武蔵野中央幼稚園、みやま幼稚園、北町保育園 各園1～3回 吉祥寺保育園(年5回交流。保育園2回、中央公園1回、ウィズ2回)
親子遠足	10/9	昭和記念公園(立川)
家族参観日	6/9 12/15	保育参観・父親懇談会 お楽しみ会
季節行事		あそぼうデー、ミニコンサート、おもちつき
誕生会		該当月の誕生祝い
園外保育		おもちゃのぐるりん、乗り物体験、中央図書館、パールブーケなど
プール		屋外プール(7月～8月)
卒園式・お別れ会	3/27	卒園式(就学4人、転園1人)
避難訓練		こども館全体訓練2回 災害時伝言ダイヤル訓練2期間
保護者会		年に4回実施(4月、7月、12月、3月)
個別面談		年に3回実施(5.6月、10.11月、2.3月)
入園説明会	3/9	事業説明・利用契約・インテークなどを個別に行う

5 「つばさ」の概況 平成31年3月31日現在 ・保護者会を年1回開催した。

	登録人数	実施回数	参加延べ人数
つばさ	10人	30回	104人

武蔵野市内在住で小学校1年生から高校3年生までの肢体不自由児を対象に放課後や夏休みの

余暇支援を行う。10/31(水)の活動で、NPO 法人プレシャスネットの招待により吉祥寺ハロウィンフェスタ 2018 へ利用児 7 名が参加した。

6 その他の事業

(1) 同窓会(ウイズ卒園児、在園の経験のある小1～小3までの親子)

8/5(土)10 時～12 時 卒園・在園経験児 11 名。保護者 14 名、きょうだい 6 名参加

(2) ボランティア・実習生

ボランティアは、1年間で延べ 164 名、実習生は、保育士実習2名(延べ22日)を受け入れた。

(3) 保健・衛生

歯科健診を年 2 回(在園児1人につき、1 回)、尿検査、耳鼻科健診、内科健診を年各1回実施した。

また、職員向けに歯科巡回相談が年に 2 回あった。(多摩口腔リハより指導医が来所した。)

(4) 避難訓練

館全体で 2 回、火災時の避難訓練を実施した。また災害時の情報伝達訓練として災害時伝言ダイヤルの利用訓練を 2 期間実施した。

(5) 職員研修:

① 内部研修(事業所・法人)

動作法まとめ/音楽療法まとめ/3年目研修/臨床心理士・作業療法士によるスーパーバイズ'フィードバック'/実践発表会/法人全体研修/安全運転講習 等

② 外部研修

都立小児総合医療センター研修/他事業所・学校見学/東社協研修/多摩保健所研修(プール・歯科)/小平特別支援学校研修/武蔵野市研修/くるみ幼児園公開療育/荒川区研修/権利擁護研修/サービス管理者・相談支援従事者、強度行動障害支援者養成研修 等

7 他機関との連携・協力

- ・教育委員会:通園児の実態把握表の作成・提出、個別行動観察の受け入れ
- ・他療育機関:並行利用児のカンファレンス、児発事業者連絡会への参加
- ・子ども家庭支援センター:ケースについての連絡、協力
- ・特別支援学校:卒園児に係るカンファレンス、就学先訪問、学校からの見学受け入れ等
- ・図書館読み聞かせの会事業への協力
- ・きょうだい交流会の開催(9/2、2/24)

8 苦情受付状況

・件数 0 件

【平成 30 年度 実績】

*見学者数(一般見学)はみどりのこども館全体の見学者を含む

定員	10 人	ボランティア活動延人数	164 人
登録利用者数(年間)	16 人	見学者数(一般見学)	40 人
利用者延数	2,797 人	見学者数(利用に向けての見学)	38 人
利用延日数	240 日	実習生(一般・学生等)数	2 人
1 日平均通園児数	11.7 人	事前の体験利用者数	15 人
		アクシデント・インシデント件数	114 件
		車両トラブル件数	1 件

平成 30 年度 みどりのこども館 地域療育推進事業
「地域療育相談室 ハビット」事業報告

1 事業運営について

(30 年度の状況)

- ・初回相談の申込時に待機日数が多い場合には健康課での相談を案内することを、関係部署との調整の上で行った。その結果当室の相談申込数が減少し、初回相談待機日数は 29 年度と比較して約 10 日減少した。それでも年間の平均で 25 日を超える待機日数となっている。また、継続相談の件数、及び計画相談支援の利用者数は引き続き増加しており、全体の相談件数は増加傾向が続いている。
- ・新たに市内に 1 か所、児童発達支援事業が開設された影響で親子通園利用者は減少している。(今後の方向性)
- ・31 年度は相談員を増員し、待機日数のさらなる減少に取り組む。
- ・31 年度にさらに市内に児童発達支援事業所が開設されるため、親子通園事業は利用者のニーズに合わせて活動の目的や方法の検討を行い、柔軟な対応を進める。
- ・令和 2 年度に予定しているみどりのこども館の児童発達支援センター化に向け、利用者にとって有益となる業務形態を実務面で整理していく。

2 事業内容

開館日 月～金 月 1 回土曜日に相談を実施

受付時間 9:00～17:00

(1) 療育相談事業

- ・対象 0～18 歳までの子どもとその保護者
- ・スタッフ 社会福祉士・理学療法士・作業療法士・臨床心理士・保育士
相談員(非常勤)・心理相談員(非常勤)・言語聴覚士(非常勤)・医師(非常勤)・事務員(非常勤)
- ・内容 心身の発達に心配のある子どもに対する家庭での支援・生活指導・関係機関との調整、補装具や住環境の調整など、専門医師(整形外科医・児童精神医・小児科医)による家庭療育に関する相談。

(2) 親子通園事業

- ・対象 発達障害等の未就学児とその保護者
- ・スタッフ 保育士・臨床心理士・心理相談員(非常勤)・保育補助員(非常勤)
- ・内容 親子の通園を基本として、子どもの年齢や発達課題に合わせたクラスで数人(6～8 人)のグループ活動をする。保護者とスタッフ間で子ども状態像や発達課題、対応の仕方を共有し、子どもが集団生活に必要なスキルを習得する場とする。
- ・通園クラスの対象児(7 クラス)
 - ① つばみクラス:0 歳児。先天性障害・周産期トラブルにより発達に障害のある児。
 - ② たんぽぽクラス:1～2 歳児。主に運動発達に遅れや障害のある児。
 - ③ なのはなクラス:1 歳児。さくらクラス待機グループ。
 - ④ さくらクラス:2 歳児。精神発達に遅れや障害がある児。運動発達の遅れが精神発達によるもの。
 - ⑤ いちごクラス:3 歳児。発達障害の可能性が疑われる児。軽度の知的発達の遅れも含む。
 - ⑥ みかんクラス:4 歳児。発達障害の可能性が疑われる児。軽度の知的発達の遅れも含む。
 - ⑦ りんごクラス:5 歳児。発達障害の可能性が疑われる児。軽度の知的発達の遅れも含む。

(3) 施設訪問事業

- ・内容 市内の幼稚園・保育園等の子ども施設職員・利用者への療育的支援
- ・スタッフ 社会福祉士・理学療法士・作業療法士・臨床心理士
- ・訪問先 ・市内及び近隣市の保育園、幼稚園
・市内公立小中学校の特別支援学級
・0123 吉祥寺、0123 はらっぱ、おもちゃのぐるりん

(4) 計画相談支援

- ・対象 0～18 歳までの子どもとその保護者
- ・スタッフ 社会福祉士・理学療法士・作業療法士・臨床心理士・保育士
相談員(非常勤)・心理相談員(非常勤)・事務員(非常勤)
- ・内容 法内障害福祉・児童通所サービス等の利用に関するプラン作成、モニタリング等。

(5) その他

- ・発達健康診査(障害者福祉課事業)に参加
- ・研修事業 市内保育園・幼稚園の保育士・教諭を対象に実施(全 9 回実施)
「ハビット地域支援講習会 発達基礎コース」
- ・きょうだい交流会(障害児をきょうだいに持つ子どもの交流会)実施

3 苦情受付状況

- ・件数 なし

【平成 30 年度 実績数】ハビット

療育相談	新規相談	265 件	親子通園 クラス名	グル ープ数	登録 者数	実施 回数	延参加組数 (見学者含)
	受理面接(初回面接)	194 件	つばみ	0	0	0	0
	継続相談	2,129 件	たんぽぽ	1	3	14	29
発達支援	PT 指導	件	さくら	1	6	29	99
	OT 指導	件	いちご	1	6	20	63
施設訪問	保育園・幼稚園	129 件	みかん	1	3	32	120
	0123・ぐるりん	27 件	りんご	1	7	15	35
	その他	109 件	ぶどう				
発達健診	15 回実施	157 件	なのはな	0	0	0	0
母子保健	3～4 ヶ月児健診 回	件	合計	5	25	110	346
医療相談	18 回実施	56 件	計画相談・モニタリングに 関する相談			1,239 件	
計画相談 計画作成		126 件	モニタリング作成			964 件	

平成 30 年度 みどりのこども館 地域開放型事業
「おもちゃのぐるりん」事業報告

1 事業運営について

武蔵野市内在住の親子が自由に来館し、遊べる場を提供している。子どもの遊び場であり、保護者の交流の場となっている。常駐の職員がいることで気軽に子育ての相談ができ、また必要に応じて「地域療育相談室ハビット」と連携し、療育相談につなげている。

今年度もおもちゃ病院・手作りおもちゃの会・ワークショップやおもちゃの貸出し事業を実施するとともに、庭のある環境を生かし、自然に触れる体験として畑での種まきや収穫体験を実施した。また、館内にある「こども発達支援室ウィズ」「療育相談室ハビット」と連携し、子育て講座やこども館全体のおまつりを一緒に行った。

コミセン親子ひろばや保育園で行われているあかちゃんのひろばにおもちゃを 20 点程度持参する出張ぐるりんは、基本月 1 回実施としているが、保育園からの依頼も増えてきている。また、桜堤児童館や子育てフェスティバルでは、ぐるりんコーナーを設置するなど地域の中でも活躍の場が広がってきている。

29 年度より実施している「手作りファースト・トイ」(妊娠 6 ヶ月の方から生後 5 ヶ月までの子どもと保護者対象)は、今年度も年 4 回開催した(産休まで仕事をされている方にも参加できるよう、内 1 回を土曜日に開催)。人気のおもちゃが作れることや、同じくらいの月齢のお子さんと知り合うことができ、参加者から好評であった。

また、30 年度よりランチタイムを通年で実施した。遠方からの来館者や、小さいお子さん連れの家庭は公園よりも安心して昼食をとれるとのことで、夏季・冬季でも利用される方がおり好評であった。

(なお、この事業の運営は、武蔵野市子ども協会に委託している)

2 事業内容

- ・事業 子どもと保護者がおもちゃで自由楽しく遊べる場の提供
- ・対象者 市内在住の未就学児と保護者
- ・利用料 無料
- ・開館日 火～土の週 5 日間(日・月・祝日は休み)
- ・開館時間 10:00～16:00 ランチタイム 12:00～13:30(平成 30 年度より通年で実施)
- ・スタッフ 子育て支援員 正規職員 2 名 嘱託職員 1 名 アルバイト数名
*支援員は保育士・幼稚園教諭いずれかの免許取得者、アルバイトスタッフは無資格者有
- ・おもちゃの在庫数 約 300 種類あり季節ごとのテーマに合わせて常時 70～80 個を用意している。
- ・その他の実施事業
手作りおもちゃの会・季節の手作りおもちゃや工作の催し・貸出し事業・おもちゃ病院(おもちゃ修理)・畑での体験
外部講師によるワークショップ・ボランティアによるおはなしひろば及び催し
ハビット×ぐるりん(育児講習)・みどりのこども館看護師と話そう!・らびっとひろば
助産師による母乳育児座談会

3 活動実績

【平成 30 年度 実績数】

- ・平成 30 年度 開館日数 250 日(前年度 250 日)
- ・利用児総数 6,845 人(前年度 6,931 人)
- ・平均利用児童数 1 日: 27.4 人(前年度 27.7 人)
- ・ひろば相談(随時対応) 371 件

年齢別	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	その他	合計
利用児数	1,099	1,621	1,109	1,470	688	551	198	109	6,845

*その他は小学生の兄弟姉妹

4 年間実施行事

手作りおもちゃの会							
4月 5日間	79人	7月 5日間	104人	10月 5日間	72人	1月 5日間	91人
5月 5日間	68人	8月 5日間	66人	11月 5日間	70人	2月 5日間	59人
6月 5日間	69人	9月 5日間	120人	12月 5日間	97人	3月 5日間	76人

ハビット×ぐるりん(ハビット職員によるミニ講座と座談会)定員 10人		
5月 25日	子どもの自己主張、どう対応してる？(臨床心理士)	7人
9月 18日	知っておきたい！乳幼児期の体を使った遊び(理学療法士)	10人

みどりのこども館看護師と話そう(子育てに関するミニ講座と座談会)		
7月 17日	季節のライフ&ケア ～乳幼児の健康と夏の過ごし方～	10人
11月 20日	季節のライフ&ケア ～乳幼児の健康と冬の過ごし方～	3人

ぐるりんスペシャル座談会(武蔵野市助産師会会長による母乳育児についての座談会)		
1月 25日	どうしよう？聞いてみよう！母乳育児いろいろ	6人

その他のイベント					
4月	野菜の苗を植えよう	4人	10月	カブの種まき 山元さんのギターライブ	4人 10人
5月	手作りファースト・トイ 母の日のプレゼント作り	10人 77人	11月	作って遊ぼうジャグリング 手作りファースト・トイ	13人 8人
6月	父の日のプレゼント作り 彦星と織姫の七夕飾り作り	110人 43人	12月	—	—
7月	山元さんのギターライブ	9人	1月	はじめての囲碁★ふれあい囲碁を楽しもう	20人
8月	カブの種まき	5人	2月	豆まきの升作り 手作りファースト・トイ	32人 2人
9月	敬老の日のプレゼント作り 牛乳パックの椅子作り 手作りファースト・トイ	77人 9人 7人	3月	おひなさま作り 祝・リモーザで飾りをつくろう	49人 4人

- ・おもちゃ病院 (原則第4土曜日に開催) 実施回数:11回(10月なし)修理おもちゃ数:247件
おもちゃ病院協会のドクター養成講座に参加したおもちゃドクター6名が、壊れたおもちゃを無償で修理(材料費のみ個人負担)。個人・施設からの修理依頼を受付。
- ・おはなしひろば (毎月1回) 実施回数:8回 参加人数:54人
偶数月:大野田福祉の会 奇数月:紙ふうせんのグループ(けやきコミセンを拠点に活動)
- ・おもちゃの貸出し (毎週水曜日及び第1土曜日) 貸出し数:1,043件 登録者 226人(小学生1人)
子ども一人につきぐるりんの貸出しおもちゃ 107点の中から1点、1週間の貸出し
- ・出張ぐるりん (基本月1回開催) 実施回数:9回 参加人数:119人
この他桜堤児童館まつり、子育てフェスティバルにぐるりんコーナーとして参加。
- ・らびっとひろば (年3回開催) 参加人数:6人
ハビット利用児を対象とした遊び場で、30年度は年3回(12・2・3月)に変更。
- ・みどりのこども館あそぼうデー 7月6日実施
- ・ぐるりんだよりの発行 偶数月に1,000部発行 保育園等市内施設に設置:配布箇所 65施設
- ・ホームページやツイッターによる情報提供 ホームページ随時更新(30年4月にリニューアル)
30年度 ツイート数:161 ツイート フォロワー:219人(31年3月末現在)

【居住支援・事業報告】

「やはたハウス」 (共同生活援助・共同生活介護)」

「グループホーム R E N G A」 (重度身体障害者グループホーム)

1 事業運営について

今年度もやはたハウス(共同生活援助、4か所、6ユニット)、グループホーム RENG A(重度身体障害者グループホーム)の2つの事業を行い、全入居者の合計43名の方々が共同生活を送られている。それぞれ日中支援先が異なり(生活介護、就労支援 B 型、特例子会社へ勤務、介護保険のデイサービス等)、多種多様な暮らしを入居者個人の主体性を尊重した形で対応した。

グループホーム運営にあたっての喫緊の課題として、入居者の加齢への対応が挙げられ、従来の支援レベルでは不十分な状況となっている。また、入居者家族の健康問題や高齢化に伴う介護力の低下も顕著に表れた1年であった。週末自宅へ帰ることができず、週末の利用が増加し、グループホームにおいて継続的に生活する方がどのユニットにも存在するようになった。ユニット単独で暮らしを支えることはできないので、リエゾン全体で職員の流動的な変則勤務を行い、それでも支援スタッフが不足している場合は、日中支援事業所に勤務するスタッフにも協力を仰ぎ、支援体制を整えた。

今年度の特徴として、入居者がグループホームから「障害者地域生活支援ステーションわくらす武蔵野」へ福祉サービスの変更を希望され、7名の方が移行することとなった。(きたまちハウス：男性2名、女性4名、グループホーム RENG A：男性1名)
完全移行は新年度に入ってから、移行スケジュールに則り4月から6月にかけて完了することになり、それまでの間、スムーズでかつこれまでの支援方針や方法などを引継ぎ行い、必要に応じて支援現場レベルでの打ち合わせは密に行った。

また、今回の入居者の福祉サービス変更に伴い、利用定員に欠員が生じたため、入居者の新規募集を実施、51名(男性：37名、女性：14名)の応募があった。全4回の選考委員会を経て、内定候補者が決定し、面接を行い入居の意思確認や入居に向けた準備を行った。

各ユニットの支援力の向上を目指し、会議を定期的開催し、運営課題に応じた研修を実施するなどした。一方で慢性的な人材不足が生じ、補充も不調傾向で続いている。その影響もあり、昨年度から継続している「身体障害者グループホーム連絡会」の活動や東京都社会福祉協議会グループホームネットワーク委員会等に定期的に職員を派遣することができていないことは、反省すべき点である。

グループホーム RENG A では、今後ご利用者の健康と生活を維持するためには居宅介護や訪問介護のサービスの利用が欠かせない状況にある。居宅介護事業や介護保険関係事業、訪問医療、訪問看護等の医療関係事業所など多数の事業所と連携し、必要に応じて関係者会議を開催した。協力関係を向上させた。また、胃ろうなど医療的な対応が必要になった入居者へは引き続き、看護師を配置した。

2 利用者の状況（きたまちハウス1の体験枠は含めない）

(1) ユニットと入居状況（平成31年3月31日現在 入居者合計 43名）

ユニット名	やはたハウス	せきまえハウス	きたまちハウス1	きたまちハウス2
入居者数	男性5名	女性6名	男性7名	女性7名

ユニット名	くすの木1	くすの木2
入居者数	男4名	男9名

重度身体障害者グループホームRENGA
女性4名、男性1名

(2) 利用者数（単位：人）

	前年度末	入所	退所	年度末
男	26	0	0	26
女	17	0	0	17
合計	43	0	0	43

(3) 年齢別利用者数 平均年齢 42.3歳

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計
男	0	2	7	12	4	1	0	26
女	0	0	3	10	3	0	1	17
合計	0	2	10	22	7	1	1	43

(4) 障害程度別利用者数

愛の手帳		1度	2度	3度	4度	愛の手帳なし
身障手帳	1級	1	2			3
	2級		2		1	
	3級					
	4級以下		3			
	身障手帳なし		15	8	8	
計		1	22	8	9	3

(5) 障害者総合支援法による障害支援区分の数

区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
1	6	11	12	7	6	43

(6) 利用日

年末年始を含めて通年利用

(7) 通所方法

本人単独で通勤・通所している方22名、通所施設の送迎を受けている方21名

(8) 年間利用状況

延べ人数 年間合計 12,596人（利用サービス日数 365日）

4月	5月	6月	7月	8月	9月
1,037	1,071	1,069	1,100	1,105	1,004
10月	11月	12月	1月	2月	3月
1,099	1,078	1,051	967	957	1,058

3 活動全般

- ・1年を通してホームで過ごせるように支援体制を組み、年末年始も含めて年間を通じて入居者の利用があった。
- ・ユニットにより、誕生会やスペシャルディナーの日の設定及び実施、また、クリスマス会や複数ユニット合同の外出活動も実施した。

4 その他の活動

(1) 保健・食事

- ① 健康管理 : 健康診断(2回)、歯科検診、インフルエンザワクチンの集団接種
- ② 食 事 : 七福の配食サービスを利用するとともに、入居者の好みに応じた「お楽しみメニューの日」を設定し実施した。
- ③ 通 院 : 必要に応じて通院の付き添いを実施した。

(2) 家族関係

1年間の支援のまとめを中心に、家族面談を実施した。また、家族の健康状態などを考慮し、週末の緊急利用に多数応えた。

(3) 見学者

法人によるグループホーム職員、社会福祉士実習生など多数受け入れた。

(4) 制度利用の支援

居宅介護(2人)、居宅介護(移動)(1人)、訪問介護(2人)、訪問看護(4人)、訪問リハビリ(介護保険:2人)、介護機器(介護保険:2人)、訪問診療(3人)、訪問歯科(1人)などの制度利用のために、関係の居宅ヘルパー事業者、訪問看護ステーションなど多くの事業者と連携して支援した。

(5) 地域との関わり

千川地域社協と桜野地域社協の運営委員として地域の活動に参加した。グループホームの周辺の清掃などを引き続き実施した。

(6) 消防機器設備の定期点検の実施

各グループホームの自動火災報知設備と自動通報設備の定期点検(年2回)を行った。

【ショートステイ事業報告】

「なごみの家」 (武蔵野市障害者(児)ショートステイ事業)

1 事業運営について

今年度も総利用時間が前年度実績を下回った。昨年度も見られた傾向である、学齢期利用者層の定期的な利用が減少(放課後等デイサービスの増加等)傾向にあることがあげられる。また、その一方で未就学児の新規登録や成人期にある方たちの宿泊利用が増加、特に諸般の事情から緊急的な利用で宿泊される方が増加した1年であったといえる。

この数年を振り返ると、レスパイトでの利用のみならず、利用される方を取り巻く生活状況や多様な生活環境に変化が生じている。整いつつある他の福祉サービスだけでは充足しきれないニーズを埋めるべく、これまで対応してきているが、この流れは今後も続くものと考えられ、今後のなごみの家自体の役割やあり方にも変化を求められていると言って過言ではないと感じられた。

- ・ご家族の病気入院や家庭での療養等のために、個別性の高い配慮が必要とされる方は、必要に応じて障害者福祉課や相談支援事業所等と連携して支援を行った。
- ・緊急利用には 24 時間・365 日の体制で対応できるように、緊急の受付窓口を設けるとともに、年末年始も対応できるよう職員が待機した。(今年度、年末年始の緊急利用はなし。)
- ・医療対応の必要な方には看護師を配置してご利用いただいた。また、重複するニーズ(緊急性の場合等)他のリエゾン職員の運用と法人職員からの応援等の調整を経て対応した。

2 利用者の状況 (平成 30 年度)

(1)利用者数

年間利用者数 146 人

月間平均利用人数 51.58 人

4月	5月	6月	7月	8月	9月
61	54	60	57	48	50
10月	11月	12月	1月	2月	3月
59	56	47	35	45	47

(単位:人) (年間利用者数は重複があるので月間の利用者数の合計とはならない)

(2)年間利用状況

年間合計 7064.25 時間 (利用サービス日数 359 日)

日平均 19.67 時間

4月	5月	6月	7月	8月	9月
600.25	635.25	630.25	696.25	775	571.75
10月	11月	12月	1月	2月	3月
437.25	715.75	557.75	406	406	632.75

(単位:時間)

(3)年間利用件数

年間合計 916 件

月平均 76.3 件

4月	5月	6月	7月	8月	9月
83	71	84	91	82	69
10月	11月	12月	1月	2月	3月
83	74	65	48	81	85

(単位:件)

(4)宿泊利用

年間合計 272 泊

月平均 22.6 泊

4月	5月	6月	7月	8月	9月
22	22	31	22	32	20
10月	11月	12月	1月	2月	3月
28	26	20	13	14	22

(単位:泊)

3 その他の活動

(1) 食事・マッシュ状特別食等、摂食しやすいような配慮をした。

(2) 職員の健康管理

職員の健康診断を年 2 回、検便を毎月実施、その他インフルエンザ予防接種も行った。

(3) 地域関連機関や団体との連携

地域の市民による活動である「千川地域福祉推進協議会」に参加した。

「きたまちハウス」 （短期入所）

【チャレンジ自立生活事業】

1 事業運営について

きたまちハウス1、きたまちハウス2のそれぞれ1室を活用して、チャレンジ自立生活事業を継続した。ご利用者の状況に適した宿泊数(1週間～1カ月)を設定し、宿泊と共同生活の体験を通して自立心を高め、人間関係も含めた成長機会を提供した。

2 実績

利用人数 35 名、利用宿泊数 251 泊

【リエゾン共通事項】 事業報告

1 職員研修

(1) 法人研修

法人が主催する全体研修、実践発表会に参加した。

(2) 外部研修

・東京都が主催する、「サービス管理責任者講習」「強度行動障害支援者養成研修」に参加した。

(3) 内部研修

・当法人の生活介護事業所でアドバイザーをされている武藤安澄氏に講師を依頼し、「自己理解を深め、仕事へのモチベーションや質の向上を目指す」をテーマに行った。(同様の内容を2回設定し、参加率を高めた。)

2 地域関連機関や団体との連携

地域の市民による活動である「千川地域福祉推進協議会」「桜野地域社協」に運営委員として参加した。

3 防災訓練

拠点ごとに複数回 避難訓練を実施した。

平成 30 年度 武蔵野市障害者福祉センター事業報告

1 施設の運営の概要

平成 28 年度までは同施設内で障害者福祉サービス(専門相談、計画相談、自立訓練、生活介護)を「生活リハビリサポートすばる(以下、すばると言う)」として行ってきたが、平成 29 年度からは市の指定管理を受託し、施設管理、障害者講習会、通所移送事業などを含め一体的に運営している。また、平成 30 年 9 月からは、ケアプラン作成に関する透明性の確保を目的に相談部門を「障害者相談支援事業所ほくと」として独立した運営を行っている。指定管理化により法内事業を含む障害者福祉センターの事業の実施主体は市であるという位置付けが明確となったことから市の基幹相談支援センターとの連携が緊密となり、結果、市のニーズが直接的に反映されるようになったため専門相談、自立訓練生活介護の利用者は徐々に増加している。

2 事業別報告

(1) 管理部門

① 部屋貸し(地下会議室、調理実習室、印刷室、録音室、視聴覚室)

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数(件)	42	49	41	42	48	41	49	36	40	41	48	49	526
延べ人数(人)	227	285	396	284	294	203	299	253	304	256	396	347	3,544

② 通所移送事業

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
延べ人数(人)	599	647	564	572	512	597	680	655	558	535	474	504	6,897

③ 障害者講習会(エアロビ、美術、太極拳、将棋、うた、卓球、体操、書道他)

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
実人数	53	53	48	45	0	60	57	50	40	60	29	20	515
延べ人数(人)	78	89	84	71	0	109	106	97	76	85	42	20	857

④ 医療相談

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数(件)	8	6	8	8	7	5	5	7	5	8	8	9	84

⑤ 音楽療法 (5月からの月、土 各30回)

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
延べ人数(人)	0	23	42	27	7	25	33	24	27	22	26	24	280

⑥ 行事・地域活動等

- ・ センター講演会 9月15日(土) 参加者100名 講師 橋本一郎氏
「手話と出会って～聞こえない人と共に生きる」
- ・ 障害者福祉センター運営協議会
第1回 平成30年8月1日(水) 平成29年度障害者福祉センター実績報告について
第2回 平成31年3月22日(金) 平成31年度事業計画について
- ・ 安全対策連絡会議 2回(9月26日、2月26日)
- ・ 避難訓練 2回(9月20日、3月14日)
- ・ 千川福祉祭り(9月15日)
- ・ 千川地区社協、千川地域防災会、サロン千川(年3回 職員派遣)
- ・ 東部フェスティバル(10月14日、物販)
- ・ 四小福祉の会(毎月第1金曜日)
- ・ あったかまつり(10月20日、実行委員会 各4月から10月の月1回)

⑦ 職員研修

- ・ 高次脳機能障害支援研修
- ・ 福祉用具、機器研修
- ・ 住環境整備研修
- ・ 虐待防止研修
- ・ 相談支援に関する研修
- ・ その他

⑧ その他の運営管理

○苦情受付状況 8件

- ・ 一日外出時の日程変更等に関する苦情(6月19日)
- ・ 昼食弁当の発注ミスに関する苦情(7月3日)
- ・ 講習会の参加可否について利用への連絡ミスに関する苦情(5月10日)
- ・ 送迎時の待ち時間に関する利用者と家族からの苦情(7月24日)
- ・ 空調の全館工事にともなう活動環境に関する利用者と家族からの苦情(11月21日)
- ・ 講習会の年齢制限に関する苦情(3月11日)
- ・ 自立訓練利用者の言動に関する苦情(3月11日)
- ・ 清掃事業所従業員の喫煙に関する苦情(3月22日)

○事故発生件数 3件

- ・ 生活介護利用者の転倒事故(7月3日)

- ・ 自立訓練利用者の転倒事故 (12 月 3 日)
- ・ 薬品の取扱いミスに関する事故 (12 月 28 日)

(2) 相談部門

① 専門相談

ア) リハビリ相談 (住宅改修、補装具等) 電話、来所、訪問など (延べ人数)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
専門相談	55	38	52	60	53	33	44	56	50	35	37	50	563

- ・ 心のバリアフリー啓発事業の講師派遣
- ・ 地域支え合いポイント講師派遣

イ) ゆいっと相談件数 (高次脳機能障害) (延べ人数)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
相談 (来所・電話・訪問)	103	118	100	114	122	89	189	111	98	106	121	121	1,392
上記内サロン	3	2	3	3	2	2	5	2	1	4	2	2	31

- ・ 高次脳機能障害関係機関連絡会 年 2 回 事務局機能としての活動
- ・ 高次脳機能障害関係機関連絡会運営委員会 年 4 回
- ・ 北多摩南部医療圏 高次脳機能障害者支援普及事業
- ・ 東京都総合高次脳機能障害研究会

ウ) 視覚障害専門相談件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
相談 (来所・電話・訪問)	68	64	98	102	98	110	83	65	67	69	66	87	977
内点字教室	15	17	16	17	7	21	16	17	15	13	17	11	182
内視覚障害サロン	0	0	0	3	4	4	2	0	0	7	3	6	29

- ・ ホームヘルパー講習会講師 (福祉公社) / ガイドヘルパー講習 (市) 講師
- ・ 武蔵野市バリアフリー工事 (点字ブロック等の敷設) への助言
- ・ 心のバリアフリー啓発事業への講師派遣

② 特定計画相談

- ・ 実績

職員	契約	計画書作成	モニタリング
視覚	42	50	83
高次脳 他	19	11	57
身体	15	22	30

(3) 通所部門

① 自立(機能)訓練(通所および訪問によるリハビリテーションサービス)

午後1時～4時

毎週月～金 1日の定員 10名

・実績

(延べ人数)

平均 6.4 人/日

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
自立 訓練	通所	129	127	113	104	95	106	131	110	99	105	96	98	1,313
	訪問	10	9	6	0	0	0	2	5	6	3	4	7	52
市単(通所)		23	10	3	11	15	20	25	32	16	7	12	9	183
計		162	146	122	115	110	126	158	147	121	115	112	114	1,548

・利用者の状況

(性別/年齢)

平成31年3月31日

年齢	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～	計
男	0	1	1	3	4	3	0	12
女	0	0	4	1	2	2	0	9
計	0	1	5	4	6	5	0	21

(障害手帳の内容)

障害名	肢体障害	視覚障害	重複(視覚・精神)	重複(肢体・精神)	重複(肢体・知的)	精神	なし
人数	13	2	0	0	1	3	2

② 生活介護(通所デイサービス) 午前10時～午後4時 毎週月～金 1日の定員 10名

・実績

平均 6.7 人/日

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
生活介護	128	152	132	157	158	132	148	129	136	123	117	133	1,645
市単独	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	128	152	132	157	158	132	148	129	136	123	117	133	1,645

・利用者の状況

平成31年3月31日

(性別/年齢)

年齢	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～	計
男	0	0	2	1	4	2	0	9
女	0	0	2	0	2	0	0	4
計	0	0	4	1	6	2	0	13

(障害者手帳の内容)

障害名	肢体障害	視覚障害	重複(視覚・精神)	重複(肢体・精神)	重複(肢体・知的)	精神	なし
人数	7	2	0	2	1	1	0

平成30年度 武蔵野市桜堤ケアハウス(軽費老人ホーム ケアハウス) 事業報告

武蔵野市桜堤ケアハウスの1年間の利用者動向は退所者が3人、新規入居者は3人となった。

この5年間に入居された方が全体の6割を超えて入居者の世代交代が進んでいる。入居者層は、①高齢化・虚弱化により要支援・要介護状態にある方々、②精神面で日常的に不安定な方々、③軽度の身体障害・知的障害のある方々、④旧くぬぎ園から転居してきた方々、⑤その他の方々と、5つくらいに分かれ、職員による支援の幅が広がり、その内容も多様になっている。また入居者の理解力・判断力の低下、間違った思い込みなどによるトラブルも増えてきている。そのためお一人おひとりが築いている関係性を損なわず、地域での生活を継続できるよう心身の状態に合わせた支援を講じている。

1 サービス提供形態と利用実績

サービス種類：軽費老人ホーム(ケアハウス)		延べ利用者数	利用率
定 員	30名(個室26室・2人部屋2室)	8,696人	79.4%

2 ケアハウス利用者の状況について

(1) 入退所状況

(人)

	30年度当初	退所	入所	30年度末
男性	5	0	2	7
女性	18	3	1	16
合計	23	3	3	23

*退所者3人の転居先等は他施設への転居2名、死亡1名

(2) 年齢構成等

<平均年齢>

(歳)

	30年度当初	30年度末
男性	77.0	79.4
女性	87.6	88.5
平均年齢	85.4	85.7

<年齢構成>

(平成31年3月31日現在・人)

	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代
男性	1	3	2	1
女性	0	2	5	9
合計	1	5	7	10

(3) 要介護認定状況

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	平均要介護度
30年度当初	5	1	3	4	0	0	0	1.1
30年度末	1	2	4	3	2	0	0	1.4

(4) 外部サービス利用状況

*重複あり

(平成31年3月31日現在・人)

	ホームヘルプサービス	通所系サービス	訪問看護	その他
男性	0	1	1	0
女性	6	4	3	0
合計	6	5	4	0

3 その他の実績

(1) ボランティア・見学、苦情等

ボランティア活動延人数：30人	見学者数(一般見学)：22人	苦情報告：0件	事故報告：2件
-----------------	----------------	---------	---------

(2) 多世代交流としてスペース提供(乳幼児・児童等と入居者との交流機会)

4階・ロビーで毎週水曜日の午後に、隣接する小学校の生徒を対象にけん玉クラブの練習場所として無償貸出し、また近隣の小規模保育室・保育ママさんの乳幼児たちの散歩コースとして開放し定期的に交流を図っている。この他に30年度から3階・和室を、月曜から金曜日の平日(祝祭日除く)の午後に、市内の小・中学生を対象に有償学習教室の場所として無償貸出している。

4 食事提供、健康管理等

(1) 食事提供状況

利用者の食事形状では下表のような状況がみられている。

常食	21	粥・おかず普通	2	(平成31年3月31日現在・23名)
----	----	---------	---	--------------------

日々の健康状態を食事摂取状況からも把握ができるため、調理部門職員と生活相談員とが連携する。

(2) 健康管理等の状況

要支援・要介護状態にある入居者は、なんらかの外部サービスが入る(他の専門職の目が入る)ことでも心身のバランスをとっており、精神面で日常的に不安定な方は漠然とした健康面等への不安を抱き、通院回数を増やす傾向もみられる。また、軽度の知的障害、高齢による判断力の低下等のため自己流(自己判断)の健康管理をしている方など、健康管理等でも様々な状況が見られている。その中で、週1回の嘱託医による健康相談、月1回の薬剤師によるお薬相談を利用しながら支援に取り組んでいる。

5 相談支援等

入居者のニーズが多様化してきている中、それぞれの入居者に共通している傾向が、理解及び記憶力、判断力の低下である。その結果、施設の生活上のルール、マナー等への理解・対応が難しくなって入居者間でのトラブルが生じたり、自己判断による思い込みによって人間関係の悪化に至ったり、個人の課題に加えて集団生活上の課題を抱えていくようになっている。

30年度は「健康管理・疾病等に関すること」の相談件数が前年度より増えている。自身の健康状態に不安を感じる方が増え、救急車の要請や入退院の件数なども増えている。必要に応じて関係機関とも連携をとりながら介護保険のサービスに繋げる相談支援もおこなった。

また保証人が不在の方に対しては入退院、通院等の支援と成年後見等に繋げる支援もおこなっている。「日常生活全般・精神的なケア(人間関係調整等)」の相談も昨年度よりは若干減少しているが最も多い相談内容であり、日常生活上の細やかな支援と人間関係の調整、サポートなどが欠かせなくなっている。

健康管理・疾病等に関すること(体調管理、通院介助、医療機関との連絡調整など)	751件
日常生活全般・精神的なケア(食生活・住環境等の生活面、人間関係調整等)	1,133件
介護保険等の制度利用に関すること(制度の紹介や申請・手続き、関係機関への繋ぎ)	92件

6 各種事業実績

(1) 年間行事の実施状況

(人)

行 事 名	実 施 日	行 事 内 容	参加 人数
お花見	3/29	4 階ロビーでのお茶会	13
学生寮新入寮生歓迎会	4/21	学生寮信陽舎新入生歓迎会	2
入居者個別面談	5 月中に随時実施	入居者と職員の個別相談	23
お役立ち講座①	6/12	高齢者を狙う消費者被害について 〈講師：消費生活センター相談員〉	11
七夕飾りづくり	6/27	桜野地域社協と共同で七夕飾りづくり (小中学生参加)	約 30 名
お役立ち講座②	8/6	介護保険あれこれ〈講師：支援センター長〉	13
夏の夕食会	7/19	学生寮生と親睦を兼ねた食事会とコンサート	34
ケアハウスレストラン①	8/23	夕食時に、お好きなセット料理を飲食、歓談	24
敬老の会	9/18	式典とコンサート 近隣の小学校の生徒も参加協力して開催	40
ケアハウスレストラン②	10/18	夕食時に、フルコース料理を飲食、歓談	24
西部コミセン文化祭	10/7. 8	入居者作品を展示（手芸・書道・俳句・写真等）	—
介護と福祉の地域広場	11/3	地域住民向けの介護・福祉の情報提供・イベント等開催	—
お役立ち講座③	11/28	認知症を防ぐ日常生活の過ごし方 〈講師：さわやか健康くらぶ講師〉	6
桜堤コミセン文化祭	11/11. 12	入居者作品を展示（手芸・書道・俳句・写真等）	—
外出活動	11/16	神代植物公園散策	3
外食活動	11/22	回転すし（魚屋路）	6
学生寮・寮祭	11/24	学生寮信陽舎の開寮祭	4
年忘れお楽しみ会	12/20	学生寮生、近隣小学校生徒と親睦を兼ねた年忘れ会	49
初詣	1/7	杵築大社へ参拝	7
新年お楽しみ会	1/16	小学生のけん玉クラブとのけん玉大会、交流会	8
節分（豆まき）	2/1	4F ロビーでの豆まき	16
桜野小・茶話会	2/4	桜野小茶道部生徒と茶話会	8
学生寮卒業生祝会	2/23	学生寮信陽舎 4 年生の卒業祝い会	4
お役立ち講座④	3/11	終活セミナー自分らしく生きるために 〈講師：東京都消費者啓発員〉	14
季節の湯	5/2. 12/21	菖蒲湯、ゆず湯	—

(2) 趣味活動、他の実施状況

活動名	活動回数(実施月)	活動概要、他
手 芸	週 1 回	ボランティア講師による編物、刺繍等の教室
書 道	月 2 回	ボランティア講師による書道教室
さわやか健康くらぶ	月 1 回	体操のインストラクターによる健康体操
歌声サークル	月 2 回	音楽講師による音楽活動、歌の会。
手作りの会	月 1 回	地域のボランティアによる小物づくり教室
入居者懇談会	年 6 回(奇数月実施)	入居者と職員による懇談会(行事等の案内、利用上のルール等確認)
避難訓練	年 4 回 (5・7・9・11・1・2月)	学生寮生と合同の夜間、日中想定防災訓練、大地震想定 の B C P 訓練
健康相談	週 1 回	配置医師による健康面、持病等に関する相談
お薬の相談日	年 10 回	薬剤師による持薬や市販薬等の理解、健康についての相談

7. 入居者の募集・選考、入居の問い合わせ

(1) 募集・選考

30 年 4 月に二人部屋 1 部屋と 1 人部屋 4 部屋の募集を行った。抽選の結果 4 名が入居予定となったが 2 名が辞退となり、2 名が 8 月と 9 月にそれぞれ入居した。

(2) 入居に関する問い合わせ状況

居室形態	市 内	市 外	合 計
一人部屋	2 5 件	8 件	3 3 件
二人部屋	3 件	0 件	3 件

8. その他

・大規模修繕工事について

平成 30 年度は 11 月中旬から翌年 2 月末までに大規模修繕工事(居室ユニットバス交換、給湯管更新、厨房設備機器交換、防火シャッター工事)を実施した。工事期間中には入居者全員、一週間単位で他の居室に一時転居して生活を送っていただいた。また厨房設備機器の交換では 4 週間程度、宅配弁当などを活用し入居者の食生活の維持・継続に努めた。その間、生活相談員が入居者の生活への支障を出来る限り少なくするために、こまめに居室訪問して入居者の体調の聞き取りなどを行い、日常生活に大きな支障が及ばないよう努めた。

平成30年度 武蔵野市桜堤ケアハウスデイサービスセンター事業報告

デイサービス利用者登録は毎月平均して50人前後で推移した。28年度より平日の定員を20名に減らしたが、年度間の延べ利用者数は昨年より377名増えた。軽度の方は延べ116名減少し、要介護3以上の方は延べ522名増えた。利用頻度では週1～2回の方が3割だが、1週間あたりの利用回数を増やす方が少しずつ増えてきた。

利用者を獲得し、定員を増やすために希望の多い入浴サービスの利用枠を4名から5名に増やし曜日も水曜日を増やした。生活支援サービス(散髪・ゴミだし・郵便物の種分け等)を利用する方も少しずつ増えている。また、送迎時の利用者の居室内の環境整備や安全点検等もおこなっているが、職員による対応が困難になった場合にはヘルパー等によるサービスにつなげ利用継続できるように努めた。また、今年度の武蔵野市モニタリング・利用者アンケート調査の満足度、平均点とも高く既存の利用者の満足度は高い。昨年に引き続きフロア内の環境改善に力を入れ、明るく落ち着いて過ごせるサロンのような空間ができ、認知症の方も徘徊されることが減り、ゆったりと過ごせるようになった。

食事サービス関連では、配食サービス(市受託事業)は利用登録者が20人前後と減少し、延べ配食数でも約350食減少した。UR桜堤団地自治会と共同で運営している「よりあい食堂かよう」(毎週火曜日に昼食提供)は毎回30名弱の参加があり、利用者からの声で「歌の会(介護予防)」と「体操(介護予防)」を月2回ずつ、食事前に開催するようになった。また、外部からの見学・視察、取材等が多く入っている。

1. デイサービス提供形態と利用実績

サービス種類：通所介護・介護予防通所介護＜通常規模型事業所＞		延べ利用者数	利用率
サービス提供 曜日・時間・定員	月～金曜日 ◆ 9:00～17:00 20人 土曜日 ◆ 9:00～16:30 15人	4,564人	82.6%

2. デイサービス利用者状況

(1) 要介護認定等結果

要介護者	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計(人)	平均要介護度
延べ人数	1,317	1,069	1,319	548	267	4,520	2.42

要支援者	要支援2	合計(人)
延べ人数		

事業対象者	事業対象者	合計(人)
延べ人数	44	44

(2) 年齢構成

(平成31年3月31日現在・人)

	30年度当初	30年度末
男性	79,0	79,2
女性	83,0	83,2
平均年齢	81,0	81,2

	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代
男性	1	0	1	5	3
女性	0	0	3	17	14
合計	1	0	4	24	17

3. 食事(配食)サービス利用実績

配食登録者(月平均)：約10人	1日配食数：約5食	延べ配食数：1,457食(お節含む)
-----------------	-----------	--------------------

4. その他の実績

(1) ボランティア関係

ボランティア活動延人数(合計 945人)	
デイサービスフロアボランティア： 696人	配食ボランティア： 101人

(2) 実習生等の受け入れについて

教員免許介護等体験実習生：16人	看護学生等実習生：1人	社会福祉士資格取得実習生：1人
------------------	-------------	-----------------

(3) その他

苦情件数：0件	事故件数：4件
---------	---------

5 プログラム提供状況

曜日	月	火	水	木	金	土
午前	脳トレ、体操 入浴	脳トレ、体操 入浴	脳トレ、体操	脳トレ、体操 入浴	脳トレ、体操 入浴	脳トレ、体操
午後	絵手紙 音楽クラブ 手芸	囲碁・将棋・ 麻雀、手芸 歌の会 個別機能訓練	陶芸 手芸 歌の会 ハンドドレナ ージュ	創作活動 (音楽鑑賞) 麻雀 四季の会	手芸 書道 音楽クラブ 個別機能訓練	レクリエーション 音楽クラブ

*お花見ドライブ、グループ外食などの外出等の活動を随時行う。

*理容技術者ボランティアによる散髪・整髪(月2回)を実施。

6 利用者の健康管理等

日常的には健康チェック(血圧、血糖値)を中心に取り組んでいるが、医療的ケアの必要な方には、看護職員による処置等を行っている。平均要介護度が軽くなったこともあり、医療的ケアの実績は減少している。

経管栄養(胃ろう)	0	吸引	0
経管栄養(鼻腔)	0	気管切開	0
人工肛門	0	MRSA	0
バルーンカテーテル留置	0	透析	0
インシュリン注射	0	尿ろう	0
在宅酸素	88	自己導尿	0
救急車搬送	0件		
歯科健診	2回実施(武蔵野市歯科医師会からの歯科医師と歯科衛生士の協力のもと実施) 1回実施(ボランティアお口の介護)		
口腔ケア教室	2回実施(武蔵野市歯科医師会からの歯科医師と歯科衛生士の協力のもと実施)		
耳鼻科健診	0回実施		

年度間の延べ処置数(件)

7 主な行事、活動報告実績

行事・活動名	期 日	内 容
お花見ドライブ	4/3~7	武蔵野市内や近隣の団地内等をドライブしてまわる
オープンコンサート	6/23・12/13	第5土曜日に地域住民を交えての公開コンサート
長寿を祝う会	9/12・13	コンサートを楽しみ、祝膳を味わう
介護と福祉の地域広場	11/3	地域住民向けの介護・福祉の情報提供イベントを開催。利用者作品も展示紹介

初詣	1/7～11	三鷹井口院へ参拝
新年会	1/16・17	コンサートや和太鼓を楽しみ、祝膳を味わう
桜堤保育園児との交流	4/26、6/28、7/3、9/1、11/24、12/19、 1/10、1/25、2/27	園児の歌と踊りによる交流

8 食事サービス関連の状況

(1) デイサービス利用者への食事提供形状等の配慮

利用者の食事摂取状況も多様化し、登録者約50人の内、下表の食事形状の工夫や配慮を行っている。

ご飯・おかず一口大	2	軟飯・おかず刻み	0	軟飯・おかず一口大	0
軟飯・おかず普通	1	ご飯・おかず極刻み	1	粥・おかず極刻み	2
粥・おかず一口刻み	0	粥・おかず刻み	1	H 31. 3. 31 現在 <人>	

(2) 配食サービス(市受託事業)

配食サービス利用者への食事提供形状等の配慮

軟飯・おかず普通	0	H 31.3.31現在 <人>
----------	---	-----------------

(3) UR桜堤団地自治会と共同で「よりあい食堂かよう(コミュニティ食堂)」運営<会計上、デイサービス>

平成26年9月から開始したコミュニティ食堂は、年末年始・祝日を除く毎週火曜日・正午から午後2時に営業し、今年度は、延べ873人が参加、1回あたり平均で20人が利用した。利用者のほとんどが、高齢の単身世帯・夫婦のみ世帯で日々、孤食状態の中、週に1回はここを訪れておしゃべりをしながら食事をさせて過ごしている。



当日には、3人の住民ボランティアがフロアで配茶、配下膳、お話し相手として協力し、また、夏・冬・春休みには近隣の桜野小学校の児童が体験ボランティアとして参加し、多世代交流の場にもなっている。在宅介護支援センターとデイサービスセンター、ケアハウスの相談員が、当番で受付・会計・相談コーナーを担当しており、公的制度や住まい、医療・健康面の相談の機会にもなり、必要な方にはサービスにつなげている。利用者の声に応じて、隔週で「体操(介護予防)」「歌の会(介護予防)」を開催し、毎回15名以上の参加があり好評を得ている。

昨年7月からは、いきいきサロン事業として運営し、引き続き外部からの見学、取材も多かった。

9 その他の実績

(1) 家族介護支援事業(市受託事業)の実施状況

講義内容：介護予防「早期からフレイル(虚弱)予防 ～しっかりと歩く・動く～」

7/14(土)	武蔵野ふるさと歴史館 [西交会と共同開催]	講師：山形哲行 (認定理学療法士・専門学校社会医学技術学院講師) 〔参加者合計〕45人
9/8(土)	西部コミュニティセンター [西部コミュニティセンターと共同開催]	
10/6(土)	桜堤コミュニティセンター [桜堤コミュニティセンター、桜野地域社協と共同開催]	
6/23(土) 12/13(木)	「家族介護者もともに生演奏を楽しむ」(コンサート) ～デイサービス・オープンコンサート～	〔参加者合計〕39人

*各地域への出前講座も定着し、今年度も地元の住民団体等の協力・共同開催で実施した。

平成 30 年度 武蔵野市桜堤ケアハウス在宅介護・地域包括支援センター 事業報告

武蔵野市の西部地域(桜堤・境・関前)の高齢者総合相談窓口として、地域にお住まいの高齢者やその家族に対して、医療・介護・福祉サービスの情報提供・利用調整や、権利擁護に関する支援など、24 時間 365 日絶え間なく行ってきた電話受付については、夜間帯はゆとりえへ転送。あわせて、地域で活動する民間ケアマネジャーに対して、相談・支援等のサポートも充実させてきた。

- 関前地区においては、平成 29 年度以前から地域ケア会議を重ねてきた結果、防災に関する相談を受けたり、民生委員や駐在所との情報交換など、不定期なことでも地域とつながる機会が増え、より密なかかわりになってきた。
- 境地区においては、今年度初めて、同地区の医療機関、ケアマネジャー、施設職員、いきいきサロン、民生委員などの地域住民が参加した地域ケア会議を開催した。「多世代とのつながり」「古いものと新しいものの融合」が強みであることを共有でき、今後の地域課題に向けての取り組みを考えるきっかけになった。
- 桜堤地区においては、平成 30 年 10 月に生活支援アドバイザーが UR 団地に着任したことで、定期的な情報交換を行うようになり、UR にお住まいの高齢者の新たな見守り体制を整えていくことができた。

平成 30 年度も引き続き、基幹型地域包括支援センターと業務における協力体制を深め、地域包括ケアシステムの実現に向けて、更なる推進に取り組んだ。また当圏域においては、市内最大数 7 カ所のいきいきサロンが設置されており、生活支援コーディネーターがサロンの維持・存続に努め、武蔵野市民社協とも情報交換を行い、地域とのネットワークづくりにも力を注いだ。

1 在宅介護支援センター(市受託事業)の報告

(1) 相談実績

【相談形態内訳】

形 態	件 数
電 話	1,695
来 所	259
訪 問	1,790
支援会議	117
その他	105
合計	3,966

【訪問地区内訳】

地 区	実人数
桜堤	651
境	698
関前	472
合計	1,821

【援助内容別の相談割合…複数相談あり】

内 容	%
介護保険に関する相談	31.2
認知症・精神に関する相談	9.8
保健・医療に関する相談	13.9
ホームヘルプサービス	5.4
デイサービス	5.0
福祉用具	4.7
住宅改善・住まい	2.5
食事サービス	1.7
高齢者福祉施設(養老施設)	2.6

内 容	%
認知症見守りヘルパー	0.8
ショートステイ	1.0
家庭的事項	3.9
年金等経済的事項	1.0
権利擁護・虐待等	2.2
リハビリテーション	3.9
介護保険に関する苦情	0.2
その他(安心コール・安否確認等)	10.2
(合 計)	100

2 地域包括支援センターbranch (市受託事業) の報告

(1) 虐待防止 (虐待対応件数) : 8 件 *重複あり

身体的: 10 件	経済的: 0 件	心理的: 2 件	性的: 0 件	介護放棄: 4 件
-----------	----------	----------	---------	-----------

(2) 権利擁護等対応件数 : 47 件 *重複あり

成年後見制度関連: 18 件	消費者被害: 1 件	困難事例: 107 件
----------------	------------	-------------

(3) 地域連携等件数 : 270 件

地域連携会議: 55 件	介護予防啓発: 6 件	他機関との連携: 209 件
--------------	-------------	----------------

(4) ケアマネ支援件数 : 296 件

個別の相談: 150 件	同行訪問: 94 件	担当者会議へ出席: 52 件
--------------	------------	----------------

3 居宅介護支援事業所実績状況

① 年間認定調査件数: 559 件 / 新規同行調査: 123 件

② ケアプラン作成総数: 156 件

介護給付ケアプラン作成数: 136 件	新予防給付ケアプラン作成数: 20 件
---------------------	---------------------

4 その他

苦情件数: 0 件	事故件数: 0 件
-----------	-----------

5 特徴だった活動

- ① 日々の業務の中で、認定調査・ケアマネジメント等の訪問、地域社協等への会議参加を通じて、地域の実情や課題把握に努めて、全職員間で情報の共有化を図った。
- ② 地域の集合住宅 (団地等)、いきいきサロン、テンミリオンハウス、コミュニティセンター、老人会等に出向き、在宅介護・地域包括支援センターの総合相談窓口としての機能や役割、介護保険制度の利用や介護施設の種類・内容の説明、認知症の理解への取り組み、市役所で作成されたエンディングノートの説明などを実施した。
- ③ 緊急・短期における福祉用具の貸し出しを行った。(年間 52 件)
- ④ 引き続き日祝祭日の窓口相談にも取り組み、365 日、地域における高齢者総合相談窓口としての役割を積極的に行った。
- ⑤ 家族介護支援事業 (家族介護者教室「さくらちゃんの介護教室」) においては、各種講座と介護者、介護経験者の集いの場としてサロンを下記のとおり開催した。生活圏域内の各所において実施し、地域住民が参加しやすい体制を整え、内容も多岐にわたるものにしてきた。

〔家族介護者教室「さくらちゃんの介護教室」〕

実施日	実施場所	講座内容	参加人数
4/20	桜堤ケアハウス	ミニ講座「杖など福祉用具の選び方」、介護者同士の懇談	15 人
5/23	桜堤ケアハウス	カラオケカフェ、介護者同士の懇談	14 人
6/18	関前コミセン	ミニ講座「熱中症予防・夏場を健康的に乗り切るコツ」、介護者同士の懇談	4 人

9/26	施設見学	東京老人ホーム めぐみ園	20人
10/26	施設見学	桜堤ケアハウス、さくらえん	18人
12/5	桜堤ケアハウス	ミニ講座「感染症予防」、介護者同士の懇談	14人
3/13	桜堤ケアハウス	ミニ講座「老いじたく～今から準備できること～」、介護者同士の懇談	14人

⑥ サービス事業者振興事業(西部第一地区別ケース検討会・地域ケア会議)を実施

4月	地区別ケース検討会 「年間計画作成・情報交換」 地域包括ケア病院について(武蔵境病院) 排泄確認票について(補助器具センター) ケース検討会・地域ケア会議について	10月	地区別ケース検討会 事例検討会「精神疾患の状態に波のある高齢者の対応」 ・10/26 個別地域ケア会議「都営独居」
5月	地区別ケース検討会全体会 「介護保険制度改正とケアマネジャーに求められる役割」	11月	地区別ケース検討会 事例検討会「認知症の本人(母)と介護する息子の支援について」
6月	地区別ケース検討会 事例検討会「予後告知を受けていないターミナル患者の支援」	12月	地区別ケース検討会 事例検討会「共依存傾向が強い家族の支援について」
7月	地区別ケース検討会 事例検討会「高齢夫婦の在宅生活を続けるために必要な支援」	1月	地区別ケース検討会 演習「リ・アセスメント支援シートの活用について」 ・1/24 個別地域ケア会議(独居認知症)
8月	休会	2月	地区別ケース検討会 ミニ講座 ① 生活困窮者の相談支援の流れについて(生活福祉課) ② 武蔵野市の虐待対応について(地域包括支援センター社会福祉士) ・2/18 個別地域ケア会議(認知症の夫を介護する妻:高齢夫婦世帯) ・2/22 エリア別地域ケア会議(境地区)
9月	講演「高齢者住宅の実態」 講師:介護施設研究所 小林大地氏	3月	地区別ケース検討会 ① ミニ講座:「定期巡回・随時対応型訪問介護看護の活用について」 講師:やさしい手吉祥寺 菊池早苗氏 ② 年度末まとめ

⑦ 認知症サポーター養成講座、ステップアップ講座、地域認知症講座を実施。

平成 30 年度は、一般市民、大学生などへ講座を実施し、認知症や高齢者への理解を深めた。

実施日	実施場所	参加団体	参加人数	参加者 合計 158 人
7/5	亜細亜大学	亜細亜大学学生	29 人	
8/15	たましん境支店	一般市民	15 人	
10/16	武蔵野プレイス	一般市民向け 声かけ講座	36 人	
12/13	武蔵野プレイス	一般市民	13 人	
2/1	西部コミセン	一般市民向け 地域認知症講座	32 人	
3/13	関前コミセン	一般市民	33 人	

⑧ 認知症相談事業の実績

4/18	7/18	10/17	1/23
2 人	2 人	2 人	2 人

⑨ 民生児童委員との定例会を実施。

開催日	協議内容	参加者数
7/20	① 最新の介護保険制度について ② 地域住民からの相談対応について ③ 個別ケースや地域の情報交換	30 人
2/13	① 地域住民からの相談の対応について ② 個別ケースや地域の情報交換	31 人

6 地域行事への参加

地域貢献と当施設を知ってもらうために、桜堤ケアハウス全体で地域イベントに協力した。

開催日	行 事 名	参加者数
4/7	桜堤桜まつり	多数参加
6/2	西部コミセンまつり	多数参加
8/26	桜堤コミセン夏まつり	多数参加
9/2	桜堤子どもまつり	多数参加
10/21	西部コミセン文化祭	多数参加
10/21	桜野地区社協 20 周年式典	多数参加
10/27	桜堤コミセン文化祭	多数参加
11/3	介護と福祉の地域広場	多数参加
11/10, 11	関前コミセンまつり	多数参加
11/18	境福祉の会 20 周年式典	多数参加
12/8	境クリスマス会	多数参加

7 地域に向けた各種講座の説明会（啓発活動）

地域住民（老人クラブ）、サロン（いきいきサロン）、テンミリオンハウス、地域社協での出張講座を開催し、介護保険制度、市単独事業等についての説明会等を実施し、地域の会合にも積極的に参加した。

開催日	対象団体・講座内容	参加者数
4/18	関前福祉の会 総会	約 60 人
4/21	西部コミュニティ協議会 住民総会	約 50 人
4/21	桜堤コミュニティ協議会	56 人
4/25	境地区福祉の会・総会	約 50 人
5/15	西部コミュニティ協議会 地域懇談会	24 人
5/18	桜野地区社協総会	約 50 人
5/29	「熱中症予防について」 かよう食堂講座	12 人
5/30	関前防災会総会	約 60 人
6/6	境福祉の会運営委員	23 名
6/15	老人クラブ連合会講演会	101 名
6/16	桜野防災ネット総会	約 40 名
6/23	桜堤コミセン利用者懇談会	32 名
6/29	境地区地域懇談会	10 名
7/6	関前民生委員・関前駐在所情報交換会	7 名
7/30	かよう食堂運営推進会議	10 名
8/6	ケアハウス入居者向け「お役立ち講座」	13 名
8/9	長楽会役員会	20 名
8/21	関前防災役員委員会合同会議	27 名
8/22	老人クラブさくら会講演会	18 名
8/28	きんもくせい情報交換会	6 名
9/15	境福祉の会合同ネットワーク	多数参加
10/15	桜野防災ネットワーク会議	19 名
10/19	境地区 第 18 回地域交流お楽しみ会	多数参加
10/30	「感染症予防」 かよう食堂講座	12 名
11/7	境福祉の会 運営委員会	約 30 名
11/25	桜野防災ネット訓練	多数参加
11/27	「介護保険制度について」 きんもくせい講演会	約 15 名
11/28	関前地区 福祉の会運営委員会	32 名
12/17	桜野地区社協 運営委員会	約 20 名
2/14	西部コミセン研修会	多数参加
2/24	桜野地区社協 支援者会議	約 30 名
3/3	境！丁目安心助け合いネットワーク交流会	30 名
3/20	関前地区 災害時要援護者安否確認支援者会議	36 名
3/27	関前地区 福祉の会運営委員会	約 30 名

* その他、いきいきサロンにて、市役所作成「エンディングノート」の説明を行った。

8 いきいきサロン事業の報告

サロン名	サロン開催時間	サロン事業内容	開設年度
iki なまちかど 保健室	毎週 月曜日 10:00～15:00	OTによる体操、チェアヨガ、ハンドベル、ぬり絵、手芸	H28年度
寄り合い食堂 かよう	毎週 火曜日 11:00～14:00	理学療法士による体操、音楽療法士による歌、ケアハウス職員による学習会、食事会、園児との交流	H28年度
マルセサロン	毎週 水曜日 13:30～15:30	体操、ぬり絵、朗読、カラオケ、交流会	H29年度
五丁目クラブ	毎週 木曜日 13:00～15:00	体操、カラオケ、交流会	H28年度
どんぐり広場	毎週 金曜日 10:00～15:00	体操、脳トレ、健康相談	H30年度
ルンルンサロン	毎週 土曜日 14:00～16:00	ペーパークラフト、折り紙、囲碁・将棋、麻雀	H28年度
なのはなサロン	毎週 日曜日 10:30～12:30	体操、ちぎり絵、ポッチャ、食事会	H28年度

* 平成31(2019)年度には、新たにに境地区に2か所のいきいきサロンが立ち上がる。

【高齢者支援部門全体研修会及桜堤ケアハウス職員全体研修会の実績】

開催日	研 修 内 容	参加者数
8/22	「地域を基盤としたソーシャルワークの全体像」	51名
12/14	「私たちは地域住民のニーズにどのように答えていくのか 求められる福祉(生活)を支える専門性とは何か」	50名
2/15	桜堤ケアハウス職員全体研修会 第1部:「福祉の仕事の基本」(30分) ・法令遵守 → (「法令遵守(コンプライアンス)と法令根拠」) ・倫理気鋭 → (倫理と尊厳) ・個人情報保護 → (個人情報保護とプライバシー保護の違い、介護現場におけるプライバシー保護等) ・身体拘束等の適正化 → (検討委員会の設置、年2回の研修開催等H30.6月改正) ・アンガーマネジメント → (衝動・思考・行動を主に怒りをコントロールする) 第2部:「大規模災害時における事業継続計画について」 ・大規模災害(大震災)についての概要説明 ・大地震・水害・土砂災害時の対応策、現状の全体計画等 ・セッションごとのグループワーク(発表含む)	29名

平成30年度 ゆとりえ(特別養護老人ホーム・ショートステイ) 事業報告

平成30年度は特別養護老人ホーム(以下、特養ホームという)の退所者が8名と多かったことから、利用率は前年度の97.2%から90.3%と下がっている。その分、特養ホームでの空ベッド利用ショートステイを774人から1,018人と大幅に増やすが、特養ホーム・ショートステイ全体の利用率は前年度の97.8%から93.4%と下がっている。また、当日の依頼を含む緊急ショートステイは13件の受け入れを行っている。

特養ホームの要介護度状況をみると、要介護5の割合が5割を超え、平均要介護度も29年度の4.19から4.37と毎年高くなっている。ショートステイの要介護度状況では、要介護3の人が一番多く利用し、平均要介護度は3.56とこちらも少しずつ高くなっている。

30年度末現在の入所希望待機者は268人。27年度の制度改正後(特養ホームの新規利用者は原則要介護3以上)、待機者は200人程減少し290人程度となっていたが、その後、待機者数は徐々に減少している。

今年度は常勤介護職員4名が退職。2名の職員を増員したが、補充ができないままの職員体制で取り組んだ。そのため、昨年度同様日中帯の介護職員のサービス提供体制を1名減員せざるを得ないものの、通常のケアサービス(3大介護等)の量・質ともに大きく低下しないように取り組んだ。しかしその弊害は個別的な生活支援等や日常の余暇・レクリエーション活動に関われなくなったりと、グループ活動と個別活動それぞれの支援をバランス良く運用しての特養全体のケアを展開できなくなっている。生活が単調になったり、入居者同士のコミュニケーションも低調になってきている。また、看護職員が1人勤務の日も日常化し、介護職員、生活相談員の医療的ケア、通院付き添い等の関わりも増えている。

1. サービス提供形態と利用実績

サービス種類：特別養護老人ホーム・ショートステイ		総利用者数	利用率
特養ホーム定員	30名(個室10室・2人部屋2室・4人部屋4室)	9,893人	90.3%
ショートステイ定員	2名(個室2部屋)	1,018人	139.5%
合 計	32名	10,911人	93.4%

2. 特養ホーム入居者の状況について

(1) 入退所状況(平成30年度実績) (人)

	退所(内、看取り)	入所	30年度末
男性	2(2)	2	5
女性	6(5)	6	25
合計	8(7)	8	30

(2) 年齢構成等

<平均年齢>

	平均年齢
男性	88.6歳
女性	87.8歳
平均年齢	88.2歳

<年齢構成>

(平成31年3月31日現在・人)

	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代	100歳代
男性	0	1	1	3	0
女性	1	4	7	12	1
合計	1	5	8	15	1

(3) 要介護度状況(平成30年度実績)

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	平均要介護度
特養ホーム延べ人数			0	225	954	3611	5103	4.37
(割合)	0%	0%	0%	2.2%	9.6%	36.5%	51.7%	
(※)29年度(割合)	0%	0%	0%	3.2%	16.0%	39.6%	41.2%	
ショートステイ延べ人数	0	0	27	69	426	289	207	3.56

(4) 利用者負担段階(居住費・食費の低所得者負担軽減区分)とサービス費用の負担割合(平成30年3月31日現在)

利用者負担段階	人数	負担割合	備 考
第1段階から3段階	14人	全員が1割等負担	補足給付(特定入所者介護サービス費等)の対象
第4段階	16人	1割負担=14人・2割負担=2人	

(5) 事故・苦情件数

事故：50件（内、2件については武蔵野市に報告）、苦情1件。

3 特養ホーム利用者の健康管理等〔医療・看護的ケア〕（平成30年度実績）

退所者内訳	退所者8人。全員が死亡退所（内、6名が施設で逝去）。
入院件数及び人数	5件。5人。病名としては蜂窩織炎、肺炎、骨折、心肺停止。
受診状況（処方を受けている方）	定期受診者28人。
外部医療機関受診状況	141回。受診者実人数113人（うち、往診が11回・8人）。
救急車搬送	2件
看護職員緊急対応	夜間帯等電話指示12件（オンコール対応）。夜間帯等臨時出勤3件（すべて看取り）。
インフルエンザ予防接種	25人（26人在籍時。1人中止）

①医療的なケアを必要としている人数

○経管栄養（胃瘻）……2人 ○吸引（吸痰）……必要時吸引6人

②武蔵野市歯科医師会の事業

毎月1回、協力歯科医制度で歯科医師と歯科衛生士による口腔内の診察と口腔ケアの助言・指導を受けている。また、摂食嚥下支援事業の一環で実施していた摂食嚥下カンファレンスはH29年度で中止している。

4 介護・生活面の状況

(1) 排泄介助

個別の排泄アセスメントを定期的に行い、トイレへ誘導し洋式トイレでの座位をとっての排泄を原則として取り組んでいる。本人から希望を伝えにくい人については、排泄につながりやすい時間帯にトイレに誘導している。昼夜共におむつ使用の重度要介護者についても、排便につながる時間帯にトイレを使用しての対応を行っている。

H 31.3.31現在

自立者	1人	昼夜トイレ介助	10人
昼夜オムツ交換（排便時トイレ介助）	8人	日中トイレ介助・夜間オムツ交換	11人

(2) 食事介助と栄養ケアマネジメント

自己摂取できる人が減少し食事介助が必要な人が増え、また、誤嚥の可能性が高い人も多くなっている。管理栄養士、言語聴覚士の助言を受けて、食事形状、一口の摂取量、食器・食具等の使用方法、食事時間などについて検討を重ねて、安全でおいしく食べる環境を整えている。さらに、楽しめる食の提供を目的に、選択食（月に1回）やイベント食も企画した。

【食事摂取の状況】

H 31.3.31現在

自立者	5人	見守り・声掛け・一部介助	12人
経管栄養（胃ろう）	2人	全介助	11人

【嚥下状態に応じた食事形態】

普通食	6人	極刻み	2人
一口大	7人	ペースト・一部ペースト	13人

【体調に応じた食事提供】

高栄養ドリンク	1人	トロミ剤使用	17人
高栄養デザート	4人		

(3) 入浴介助

ほとんどの人が洗身、移動面での援助が必要な人である。高齢で肌が弱く乾燥傾向の方が多いため、清潔を保ち皮膚トラブルを防ぐ対応にも取り組んでいる。

H 31.3.31現在

個別浴槽（自力・一部介助等）	5人	個別浴槽（電動リフト使用）	12人
		機械浴槽	13人

(4) 機能訓練等の実施状況

理学療法	土曜日
------	-----

5 主な行事、活動報告

行事・活動名	期 日	内 容
花見（桜見物）	4月初旬	近隣の桜を楽しむ
ハンカチの木バザー	4／15	ボランティア主催によるバザー
盆法要の集い	8／12	1年間に亡くなられた方を偲ぶ 看取り振り返り
吉祥寺礼祭（饅頭）	9／8	井の頭通り商店会の皆さんが御輿とともに来館
敬老会	9／16	家族とともに演奏を聴きながら長寿を祝う
新年会	1／13	家族とともに武蔵野囃子を楽しみ新年を祝う
選択食	9回	3種の献立から選んでいただく食事の提供（イベント食含む）
誕生会（入居者懇談会）	12回	入居者の誕生日を祝う
工作活動	20回	ボランティア指導による工作と合唱
お茶会	20回	ボランティアの振る舞いにより和菓子と抹茶を楽しむ
近隣学校との交流	随時	第三小、第三中、本宿小、立教女学院など
近隣保育園との交流	3回	松庵保育園児との交流
家族懇談会	5・9・1月	日常生活の報告、制度改正等説明、グループワーク

6 ゆとりえ特養ホームへの入所希望待機者の状況（H 31.3.31 現在）

(1) ゆとりえ特養を希望する待機者の要介護度状況

待機者総数	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	平均要介護度
268人	0	1	5	22	88	76	76	3.72
割合（％）	0	0.03	1.8	8.2	32.8	28.6	28.6	
平成28年4月1日の割合	0.2	0	6.3	13.0	32.1	30.5	17.9	【参考】
平成28年 都全体割合	—	—	6.8	12.2	29.6	28.9	22.3	【参考】

■待機者の要介護度別の状況では、要介護4・5の人の占める割合が多くなっている。待機者の平均要介護度が「3.72」になり、重度化傾向を示している。

(2) その他

○27年度の制度改正以降は、ゆとりえ特養ホームの待機者数が290人程度で推移してきたが、30年度は減少している。最近では、ユニット型特養ホームや介護付有料老人ホーム等での利用料負担が難しくなってきたことでの申込者も増えてきており、多床室を希望する人も出てきている。

7 その他の実績

① 第三者評価を実施（評価団体：特定非営利活動法人 特養ホームを良くする市民の会）

平成30年10月26日（金）、31日（水）に利用者5名にヒヤリングと家族アンケートを行い、12月20日（木）に施設長・主任へのヒヤリングを実施した。調査結果に基づいて、提供しているサービス内容等を振り返り改善に取り組むきっかけとなった。

② 介護職員の人材確保困難

平成30年度は常勤職員4名が退職。2名の職員を増員したが、人員体制が整わないままだった。しかし、少ない職員数でもケアサービスの量・質ともに大きく低下させることがないように提供体制や業務内容等を見直して行っているが、現場としては限界に近い状況になっている。今後は常勤の介護職員を増員することで提供体制の見直しを図る。

③ 地域住民の自主活動を支えるためのゆとりえスペースの開放

平成29年度より地域住民のサロン活動、趣味・健康づくりのサークル活動等を支援するために、ゆとりえスペースの地域開放を本格的に進めてきた。土曜日・日曜日にデイルームや相談室を使用してのコーラス活動、手芸・パッチワーク活動等が定例化している。

9/29（土）には東保育園父母会による園児のお泊り体験も受入れ。園児16名、保護者20名、成蹊大学生6名が参加。そのうち泊まりは園児15名、保護者5名だった。

また、南町福祉の会主催の「知りあい ふれあい 支え合う 福祉の輪」や奇数月第4土曜日開催の認知症カフェ「カフェ君の名は」も定着し、地域住民とゆとりえ専門職が協働して地域福祉を進める場づくりが行われている。

平成30年度 ゆとりえデイサービスセンター 事業報告

平成30年度は、利用登録者、総利用者数ともに減少している。また、退職した非常勤介護職員の補充ができないままでの職員体制で取り組んだ1年であった。利用者が減少していた土曜日を4、5月休止し、6月より定員10名として認知症高齢者の地域交流活動を中心としたものに変更して再開している。その影響もあり、総利用者は29年度と比較して1,135人(約12%)減少している。

利用者の特徴として、特に運動能力が低下していない認知症の方へのケアの度合いが高まっている。帰宅願望など外に出たがる方に安心して過ごしていただく工夫を全職員が共有しながら支援を行っている。

武蔵野市の受託事業である配食サービスの利用者減少は止まらず、29年度実績と比較すると約11%の減少となった。食事の提供と共に安否確認を主な目的としているため、利用できる要件が限られている。また、毎週金曜日の会食型サービス(ゆとりえキッチン)は、1日平均5.2人となり、利用者は少し減っているが、毎週利用される固定客もいる。

1 デイサービス提供形態と利用実績

サービス種類：通所介護・介護予防通所介護・通所型サービス〈通常規模型事業所〉		総利用者数	利用率
サービス提供 曜日・時間・定員	月～金曜日◆9:00～16:30 40人	8,030人	78.1%
	土曜日 ◆9:00～16:30 10人	160人	36.4%
		計 8,190人	76.4%

2 デイサービス利用者状況

(1) 要介護認定等結果(平成30年度実績)

要介護者	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計(人)	平均要介護度
延べ人数	1,173	3,370	2,058	1,049	341	7,991	2.47
(割合)	19.3%	40.8%	21.9%	11.5%	6.4%		
(※)29年度(割合)	17.0%	37.9%	27.5%	12.3%	5.3%		

要支援者	要支援1	要支援2	新事業対象者	合計(人)
延べ人数	0	0	199	199
(割合)	0%	0%	100%	
(※)29年度(割合)	0%	0%	100%	

(2) 年齢構成

(平成31年3月31日現在)

	30年度末	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代	100歳代	合計	
男性	87.0	0	2	9	7	0	18	
女性	90.0	3	2	25	39	1	70	
平均年齢	89.0	合計	3	4	34	46	1	88

3 食事(配食)サービス利用実績(平成30年度実績)

配食登録者(月平均)：約24人	1日平均配食数：12.4食	年度間総配食数：3,622食(お節含む)
-----------------	---------------	----------------------

○食事内容への配慮として、粥への変更・嗜好に応じた代替え食への対応を行っている。

○28年9月頃からの利用者減少傾向は現在も続き、総配食数では、27年度：7,230食、28年度：4,231食、29年度：3,723食、30年度：3,622食になっている。安否確認の目的があり、要件が限られるため新規の配食利用者が減っていること(30年度の新規利用者は7人)が原因である。

4 その他の実績

(1) 会食型サービス(ゆとりえキッチン)実施状況

営業日数	49日	延べ来店者数	254人	1日平均来店者	5.2人
------	-----	--------	------	---------	------

(2) 事故・苦情件数

事故：12件(武蔵野市への報告は1件)

苦情：1件(他利用者と職員対応に関するもの)

5 サービス提供内容等

曜日	月	火	水	木	金	土
午前	○健康チェック（血圧、脈拍、顔色など） ○うた、レクリエーション ○入浴く月～金曜日＞		○朝のつどい ○排泄ケア		○口腔体操 ○体操（スウェーデン体操、音楽体操） ○地域開放型コンサート	
昼食	○食事介助		○服薬		○口腔ケア	
午後	手芸、麻雀 アートクラブ カラオケ 旅の友 移動美容室 個別対応 個別機能訓練	口琴クラブ 絵手紙 カラオケ 書道 散髪 個別対応	みどりの会 水彩 カラオケ 囲碁・将棋 個別対応	書道、麻雀 旅の友 カラオケ 麻雀 個別対応	コーラス 手芸、麻雀 水彩 染め物 唱歌の会 個別対応 個別機能訓練	地域交流活動 （使用済み切 手整理、ベル マーク、おも ちゃ作りと保 育園訪問な ど）

○グループ活動を好まない人へは個別の対応を行った。休息や入浴後の静養等でベッド（6台）を活用。

6 デイサービス利用者の健康管理等

*医療処置延べ人数

経管栄養（胃瘻）対応	37人	バルーンカテーテル留置	0人
経管栄養（鼻腔）対応	0人	透析	0人
気管切開	0人	インシュリン注射	0人
吸引	0人	尿ろう	0人
人工肛門	11人	在宅酸素	33人
MRSA	16人	自己導尿	0人
歯科健診	2回実施（武蔵野市歯科医師会からの歯科医師と歯科衛生士の協力のもと実施）		
口腔ケア教室	2回実施（武蔵野市歯科医師会からの歯科医師と歯科衛生士の協力のもと実施）		
救急搬送	0回（転倒、転倒・発熱・血圧低下）		

7 主な行事、活動報告

行事・活動名	期 日	内 容
花見ドライブ	4月上旬	市内の桜の名所を小グループでまわる
長寿を祝う会	9/11～14	楽器演奏、合唱を聴き、祝膳で楽しむ
新年会	1/8～11	楽器演奏などを聴き、祝膳を楽しむ
新年ドライブ	1月上旬	未実施
コンサート	37回	・うたクラブ＝23回 ・市民合唱団＝1回 ・サロンコンサート＝12回 ・他6回
近隣学校との交流	随時	本宿小、第三中、立教女学院、松庵保育園など
「食」に関する活動	随時	料理の会（2回）、イベント食（9回）
親子広場	12回	乳幼児親子と高齢者との交流プログラム（第2金曜日に開催）
その他		・散髪（12回） ・移動美容室（6回）

8 食事サービス関連の状況

下記の利用者も含めて35名の人の対して、食事形態やごはん量の調整、禁食対応、食器の工夫や自助具の用意を行い、快適な食事を提供できるように環境を整えている。

粥/普通	5	ご飯/一口大	2	粥/ソフト or 極刻み	4
粥/一口大	4	ペースト	1	肉のみミンチ or ソフト	7

H 31.3.31 現在（人）
（主食/副食）

9 その他の実績

(1) 家族介護支援プログラム（武蔵野市受託事業）の実施状況

① くつろぎサロンコンサート

毎月第2火曜日にデイサービスの利用者向けコンサートを利用者家族や他の介護者も参加していただく。

実施回数	12回	参加延べ 人数	44人 (利用者家族9人、家族介護者8人、一般市民25人、その他2人)
------	-----	------------	--

② 家族介護者向け健康講座

6/30(土)	ゆとりえ	「認知症の人を介護する介護者の抱える悩みを解決するために」	14人
10/6(日)	ゆとりえ	「認知症の理解と高齢者に起こるコミュニケーション障害」	13人
11/18(日)	ゆとりえ	「高齢者の歩行の特徴と歩行能力の向上」	31人
11/18(日)	ゆとりえ	「特養ホーム等の見学説明会」	5人

- (2) 福祉サービス第三者評価を受審 (評価団体：特定非営利活動法人 特養ホームを良くする市民の会)
今年度の受審はなし。

平成30年度 ボランティア活動実績 (特養・デイ・共通)

(1) 活動延べ人数

①特別養護老人ホームでの活動		
シーツ交換	26人	(5月まで)
洗濯物たたみ	396人	
整容	230人	
食事下膳	52人	
余暇活動、他(お茶会、クラブ活動、行事参加、傾聴、歌、他)	105人	小計 809人
②デイサービスセンターでの活動		
フロア活動(配下膳、話し相手等)	518人	
趣味活動等(プログラム活動講師・助手、補助等)	882人	
コンサート、小学生、保育園児、他	180人	小計 1,580人
③その他の部門での活動		
植栽、庭水まき	168人	
配食配達	471人	
事務連絡会、バザー他	81人	小計 720人
		合計 3,109人

(2) ボランティア懇談会等の実施

4/15(日)	ボランティア感謝の集い	38人
3/14(木)	配食ボランティア(試食会)	11人

平成30年度 実習生受け入れ実績(特養・デイ・支援での延べ人数)

武蔵野第三中職場体験学習	6人	杏林大学・看護学生実習	28人
社会福祉士現場実習	24人	教員介護等体験実習	80人
その他	18人	合計	156人

平成30年度 ゆとりえ在宅介護・地域包括支援センターの事業報告

武蔵野市の東部地域(吉祥寺南町・吉祥寺東町・御殿山1丁目)の高齢者総合相談窓口として、各種介護支援サービスの情報提供・総合調整、権利擁護、地域支援等の高齢者福祉サービスの事業を24時間365日行った。

昨年度から生活支援コーディネーターが配置されたことにより、住民主体のさまざまな支え合いづくりや地域づくりへの取り組みに、職員が一丸となって取り組む土壌ができてきている。

また、南町福祉の会とゆとりえ(全セクション参画)とが共同して認知症カフェを定期開催し、地域における認知症の人とその家族等が集う機会となっている。

個別相談支援の特徴としては、生活の限界点を迎える独居高齢者への対応に困難性がある一方で、地域住民の支えによって在宅生活の継続が可能となっている方も見られている。

1 在宅介護支援センター(受託事業)の報告

(1) 相談実績

【相談形態内訳】

形 態	件 数
電 話	936件
来 所	278件
訪 問	1,910件
支援会議	74件
その他	139件
合計	3,337件

【訪問地区内訳】

地 区	延件数
東 町	924件
南 町	746件
御殿山1丁目	240件
合 計	1,910件

【日祭日・夜間相談内訳】

地 域	延件数
ゆとりえ	2,791件
ケアハウス	112件
不 明	9件
その他地区	0件
市 外	31件
合計	2,943件

【援助内容別の相談割合…複数相談あり】

内 容	%
介護保険に関する相談	17.7
保健・医療に関する相談	13.5
ホームヘルプサービス	11.0
デイサービス	9.8
認知症・精神に関する相談	9.7
福祉用具	9.3
住宅改善・住まい	4.8
リハビリテーション	3.9
食事サービス	3.2

内 容	%
高齢者福祉施設(介護施設)	2.5
ショートステイ	2.9
家庭的事項	2.1
認知症見守りヘルパー	1.6
権利擁護・虐待等	1.1
年金等経済的事項	0.9
介護保険に関する苦情	0.4
その他	6.0
(合 計)	100.0

2 地域包括支援センター事業(受託事業)の報告

(1) 虐待防止(虐待対応件数)：9件

*重複あり

身体的：7件	経済的：1件	精神的：0件	性的：0件	介護放棄：1件
--------	--------	--------	-------	---------

(2) 権利擁護等対応件数：32件

*重複あり

成年後見制度関連：3件	消費者被害：0件	困難事例：30件
-------------	----------	----------

(3) 地域連携等件数：161件

地域連携会議：73件	介護予防啓発：77件	他機関との連携：11件
------------	------------	-------------

(4) ケアマネ支援件数：76件

個別の相談：33件	同行訪問：19件	担当者会議へ出席：24件
-----------	----------	--------------

3 居宅介護支援事業所の実績

① 年間認定調査件数：526件／新規同行調査：前期90件

② ケアプラン作成総数：286件

介護給付ケアプラン作成数：164件	新予防給付ケアプラン作成数(総合事業含む)：122件
-------------------	----------------------------

4 その他

苦情件数： 1 件	事故件数： 0 件
-----------	-----------

5 通常活動の実績

- ① 高齢者の孤立や異変を早期に発見するための情報収集と実態把握、災害時に備えた地域連携・協力体制の構築のために、地域福祉の会等の地域会議に参加し、啓発活動や情報交換を行った。
- ② 医療機関や薬局、地域の店舗等に出向き、総合相談窓口としての機能や、ゆとりえ事業の説明を行った。
- ③ 緊急・短期の福祉用具の貸し出しを行った。(年間79件)
- ④ 夜間・日祝日を含めた24時間体制の相談体制を確保した。(夜間・日祝日の相談件数は年間2943件)
- ⑤ 個別とエリアの地域ケア会議を通して、地域住民と一緒に地域課題について考えた。

◇個別地域ケア会議

実施日	実施場所	内容	参加人数
4/18	ゆとりえ	被害妄想がある認知症の人へのアプローチ	11人
10/5	利用者宅	地域の心配する気持ちと何か手伝いたいという思いを力に変えて支援につなぐ	8人
3/26	正福寺	歩行力の低下がある方が地域の集いへの参加を続け社会性を維持する	11人

◇エリア別地域ケア会議

実施日	実施場所	内容	参加人数
7/5	南町コミセン	南町三丁目目が認知症になっても安心して暮らし続けられる地域であるために	40人

- ⑥ 家族支援事業として下記のように「ほほえみサロン(介護者、介護経験者の集いの場)」を実施。
コミセン等を活用することで、地域住民が参加しやすい環境と、少人数で介護者同士がじっくり話せるようにした。また、認知症カフェを定期開催するに当たり、南町福祉の会とゆとりえと一緒に協議を重ね、住民が主体となって実施することが出来た。

実施日	実施場所	講座内容	参加人数
6/20	南町コミセン	介護者のための料理教室(調理と試食)	9人
8/21	南町コミセン	排泄について考える(講演会)	14人
10/20	本宿コミセン	フットケア(講義と実演)	10人
12/20	南町コミセン	消費者被害から身を守る(出前寄席落語)	10人
2/20	南町コミセン	看取りの話(講演会)	24人

⑦ 東部第一地区別ケース検討会の実施

事例検討会を年5回実施することとなり、民間事業所を含む主任介護支援専門員がスーパーバイザーの役割を担った。講演会は、かかりつけ医、薬、高次脳機能障害を学んだ。

4月	年間計画作成・排泄確認票について	10月	事例検討会(過去にとらわれているうつ)
5月	合同研修会(制度改正報酬改定とCM)	11月	講演会(押さえておきたい薬の基本)
6月	事例検討会(要求が多く困った事例)	12月	事例検討会(隣人との付き合い)
7月	講演会(主治医はCMにとっても主治医でほしい)	1月	講演会(チームで支える高次脳機能障害)
8月	休会	2月	事例検討会(デイの利用が続かない)
9月	事例検討会(認知症のSさん在宅は無理?)	3月	生活困窮者・虐待対応・振り返り

⑧ 認知症サポーター養成講座の実施

依頼のあった開催に加え、ゆとりえ職員への講座を2回に分けて行った。

実施日	実施場所	参加団体	参加人数
11/29	ゆとりえ	ゆとりえ職員	7人
2/9	商工会館	一般市民	16名
			合計 23人

⑨ 認知症相談事業の実績 10人

5/9: 2人	8/1: 2人	11/7: 3人	2/6: 3人
---------	---------	----------	---------

⑩ 民生・児童委員との定例会の実施

実施日	実施場所	協議内容	参加者数
7/17	ゆとりえデイルーム	地域ケア会議報告・地域の支え合いの力を深めるために	24人
2/5	ゆとりえデイルーム	マイエンディングノートともしばなカード	22人

⑪ その他の講座開催

実施日	実施場所	協議内容	参加者数
7/26	本宿コミセン	銀友会ひとり暮らし食事会での介護保険講座	17人
8/20	南町コミセン	祥南クラブ食事会熱中症予防講座	32人
10/12	本宿コミセン	地域フォーラム認知症講座	25人
10/20	東急広場	住まいリーフェスタ住宅改修講座	10人

6 生活支援コーディネーターによる「いきいきサロン事業」等の住民主体の動き

御殿山1丁目では、町会集会室にて月2回吹き矢サロン「金メダルサロン」を開催。いきいきサロンにつなげるために働きかけているものの、主体的に関わってくれる住民が見つかっていない。また、今年度一杯でいきいきサロンの一つ「オリーブサロン」が自主活動となることが決まっている。

高齢者支援部門及びゆとりえでの職員研修・研究会等の実績

1 高齢者支援部門・職員全体研修会

開催日	研修内容	参加者数
8/22(水)	「地域を基盤としたソーシャルワークの全体像」 講師：中島 修 氏(文京学院大学准教授)	50人
12/14(金)	「社会福祉法人として地域住民のニーズにどのように答えてきたのか、求められている福祉の実践能力とはどのようなものか」 講師：中川 千弥 氏(特別養護老人ホーム泰山施設長)	50人

2 ゆとりえ内部の研究会、研修会

(1) 委員会、研究会等の活動状況

① コミュニケーション研究会(7回開催)

○ゆとりえ特養職員によるコミュニティソーシャルワークの展開について検討した。

(2) 職員内部研修会

開催日	研修内容	参加者数
11/28	褥瘡防止委員会研修会「進化する介護機器&介護技術」 講師：モルテン田中大貴氏 <特養ホーム>	8人

平成30年度 障害者支援施設準備室（わくらす武蔵野） 事業報告

1 建設工事竣工関係

(1) 工事関係

- 工事管理 毎週金曜日 14時から総合建設会議を定例とし、開設まで進捗調整会議を行った。その中で、騒音振動計の数値をもとに騒音等対策会議を行った。
- 工事苦情 騒音振動、異臭や PM2.5、建物の外観、隣地への目隠し、日照の影響など苦情やご意見をいただいた。基本的に訪問し、ご説明しご了承いただいている。
- 引き渡し 平成30年12月28日（金曜日）加賀田組より建物の引き渡しを受け、同日建物の取扱説明を受けた。その後、多様な設備の取扱説明は、別途行った。

(2) 開所式・内覧会

- 開所式 平成31年2月15日（金曜日） 来賓 92名 利用者家族 33名
わくらす武蔵野地下活動室に置いて、松下市長、笹井副市長、邑上前市長、土屋元市長、市議会議長、市議会厚生委員、近隣住民、地域の関係団体、入所施設事業者など来賓と利用者ご家族の代表、法人役員や職員のご参列を頂き開所式を行った。その後、会場を移動し祝賀会を行った。
- 内覧会 平成31年2月15日（金曜日）16:00～18:00（関係者内覧会）64名来場
平成31年2月16日（土曜日）10:00～16:00（一般内覧会）344名来場
平成31年2月18日（月曜日）10:00～16:00（一般内覧会）295名来場
その他開設前の見学や研修などご協力いただいた施設従事者や法人、行政関係者など多数見学を受け入れました。

2 利用者募集関係

(1) 利用調整

わくらす武蔵野の施設入所支援の利用希望は、108名の申込みがあった。その後、3名から辞退の申し入れがあり105名の利用調整を行った。利用調整基準による得点順名簿を基に、利用調整委員会において施設支援合理性（性別年齢、ユニット特性、専門的支援の有効性、特別に配慮すべき個別の事情）を勘案し利用候補者36名を決定した。

候補者への決定通知後、辞退者があり、再度利用者調整委員会を行い、補欠者のなかから選定した。さらに、辞退者があり同じ利用調整手順により決定した。

- | | | | | |
|----------|-----|-------------|-----|------------|
| 利用調整委員会 | 第1回 | 平成30年5月30日 | 第2回 | 平成30年10月2日 |
| 利用内定者説明会 | 第1回 | 平成30年11月20日 | 第2回 | 平成31年1月25日 |
| 法人事業説明会 | 第1回 | 平成30年12月1日 | 第2回 | 平成30年12月3日 |

(2) 利用調整委員会委員

- 学 識 弁護士
- 学 識 知的障害者事業者団体代表者
- 学 識 障害者支援施設の施設長
- 行 政 武蔵野市
- 法 人 社会福祉法人武蔵野
- アドバイザー 東京都

3 その他地域活動

近隣の会 施設周囲の近隣の会の皆さんと、緑化計画について相談し施工した。

ボランティア 植栽の水やりや玄関周りの生け花や節句人形の飾りつけなど近隣の方からご協力いただいた。

町内会 5丁目町内会のバス研修旅行や餅つきに参加した。

4 事業開始（平成 31 年 3 月 1 日～3 月 31 日）

わくらす武蔵野の事業のうち、生活介護と施設入所支援の 2 事業を本年度中に開始した。指定特定相談と短期入所、行動援護の 3 事業は次年度に開始する。

(1) 生活介護（平成 31 年 3 月 31 日現在：利用者 18 名）

生活介護は 3 月 1 日（金）から事業開始した。障害者総合センター（山びこ、大地）のご利用者で、わくらす武蔵野に入所する予定の 25 名のうち、16 名の方が利用した。

次年度以降、施設入所予定者を中心に徐々に利用者が増加する予定である。

(2) 施設入所支援（平成 31 年 3 月 31 日現在：利用者 2 名）

施設入所支援は 3 月 25 日（月）から事業開始した。自閉症男性ユニット「空鳥」のご利用者 2 名が入所した。以後、次年度より 3 か月ほどかけて 4 つのユニットを満床にしていく計画である。

